小松市内遺跡発掘調査報告書 XV

薬 師 遺 跡

島　遺　跡

矢崎宮の下遺跡

2020 . 3

石川県小松市埋蔵文化財センター

例　言

1. 本書は、石川県小松市内において小松市教育委員会が実施した埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 試掘調査・発掘調査・出土品整理・報告書刊行は、文化庁補助金を受けて実施した。
3. 対象となった埋蔵文化財、並びに調査地・調査原因・調査面積・調査期間・調査担当者は次のとおりである。

【薬師遺跡 12 次】（平成 27 年度）
[調 査 地] 石川県小松市矢崎町
[調査原因] 個人住宅
[試掘調査] 2015. 6. 24
[試掘担当] 岩本信一
[調査面積] 123m^2
[調査期間] 2015. 7.21 ～ 2015. 8.18
[調査担当] 宮田 明

【薬師遺跡 13 次】（平成 27 年度）
[調 査 地] 石川県小松市矢崎町
[調査原因] 店舗併用住宅（個人）
[試掘調査] 2015. 7. 7
[試掘担当] 岩本信一
[調査面積] 192m^2
[調査期間] 2015.10.19 ～ 2015.11.20
[調査担当] 宮田 明

【薬師遺跡 14 次】（平成 28 年度）
[調 査 地] 石川県小松市矢崎町
[調査原因] 個人住宅
[調査面積] 190m^2
[調査期間] 2017. 1.10 ～ 2017. 1.31
[調査担当] 坂下義視、宮田 明

【島遺跡 4 次】（平成 28 年度）
[調 査 地] 石川県小松市島町
[調査原因] 個人住宅
[試掘調査] 2016. 3.17
[試掘担当] 岩本信一
[調査面積] 54m^2
[調査期間] 2016. 5.16 ～ 2016. 5.27
[調査担当] 宮田 明

【島遺跡 5 次】（平成 28 年度）
[調 査 地] 石川県小松市島町
[調査原因] 個人住宅
[試掘調査] 2016. 5. 2
[試掘担当] 岩本信一
[調査面積] 159m^2
[調査期間] 2016. 5.24 ～ 2016. 6.10
[調査担当] 宮田 明

【矢崎宮の下遺跡 3 次】（平成 28 年度）
[調 査 地] 石川県小松市矢崎町
[試掘調査] 2017. 2. 3
[試掘担当] 坂下義視、岩本信一
[調査原因] 共同住宅
[調査面積] 163m^2
[調査期間] 2017. 2.27 ～ 2017. 3.24
[調査担当] 坂下義視、宮田 明

4. 発掘調査は、臨時作業員を雇用して実施した。
5. 出土品整理並びに実測・製図は、臨時作業員を雇用して、令和元年度に実施した。
6. 遺構の実測及び写真撮影は、各発掘調査担当者が行い、遺物の写真撮影は宮田が行った。
7. 本書の執筆・編集は宮田が担当した。
8. 発掘調査に係る遺物・図面・写真等の資料は、すべて小松市埋蔵文化財センターで一括保管している。

凡　例

1. 本書に示す座標は平面直角座標 VII 系、世界測地系（測地成果 2011）に準拠している。
2. 本書に示す方位は、特に断りがない限り、座標北である。
3. 高度は標高（T.P.）で表示している。
4. 本書に示す土色は、マンセル表色系に準拠している。

目　次

Ⅰ　位置と環境 …… 1
Ⅱ　薬師遺跡発掘調査 …… 13
Ⅲ　島遺跡発掘調査 …… 28
Ⅳ　矢崎宮の下遺跡発掘調査 …… 40
写真図版 1 ～ 6
報告書抄録

第Ⅰ章　位置と環境

第１節　地理的環境

１　市勢と沿革

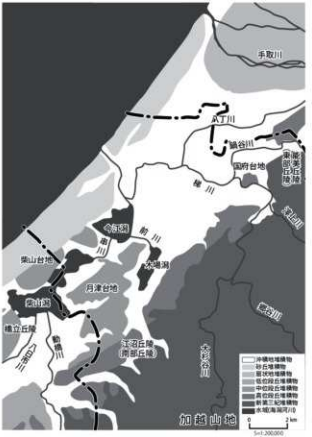
小松市は石川県南部に位置し、東西約 20km、南北約 30km に跨る市域は面積 371.13km^2 を測る。南は大日山（1368m）で福井県勝山市と境し、ここより約 5km 北に位置する鈴ヶ岳（1174m）を水源とする梯川流域を包括した市域をなしている。市域の大半は山岳地であり、約 11 万人を数える人口の大部分は北西部の狭長な平野部に集中している。近世城下町として成立し、商業都市として発展した小松町を核として近隣 7 町村を合併して昭和 15 年市制施行、その後 2 次にわたる編入合併を経て現在に至っている。

第1図　小松市の位置

２　加賀三湖と月津台地

小松市の山岳地（加越山地）は新第三紀火砕流堆積物よりなるが、この外縁を縁取るように、第四紀高位段丘がなだらかな丘陵を形成している。ここより北にせり出すのが月津台地で、標高は、高所で約 20m 程度あるが、平均的には 5 ～ 10m 程度で、なだらかな起伏の連続した中位段丘である。大きな開析谷で区切って、北を御幸野台地、南を矢田野台地と呼ぶこともある。かつて、周囲は浜堤列で海と隔てられた潟湖が囲み、泥質の湿地や湿田が広がっていたが、現在は今江潟の全域、柴山潟の約 3 分の 2 が干拓され、湿田や湿地も月津台地の採取土で埋め立てて乾田化されている。

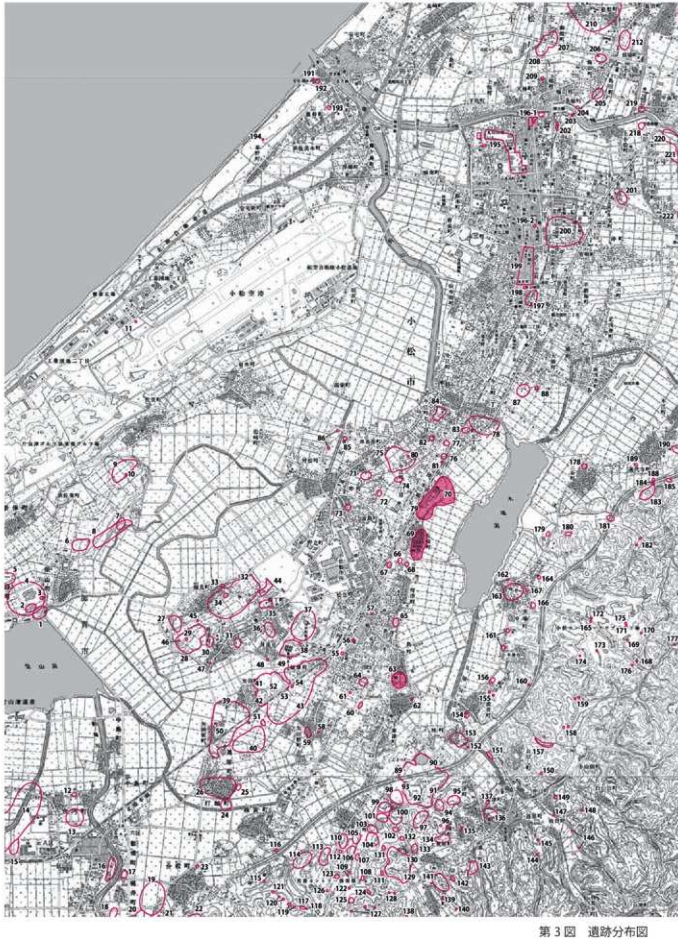
梯川は、大杉谷を北流し、郷谷川・滓上川等を合わせて国府台地をえぐりながら西に向きを変え、八丁川・前川等を合わせて、安宅で浜堤を突き破って日本海に注ぐ。図 2 は明治時代の河道と水域を合成したものだが、幕末の頃までは、細かく複雑に蛇行していた。



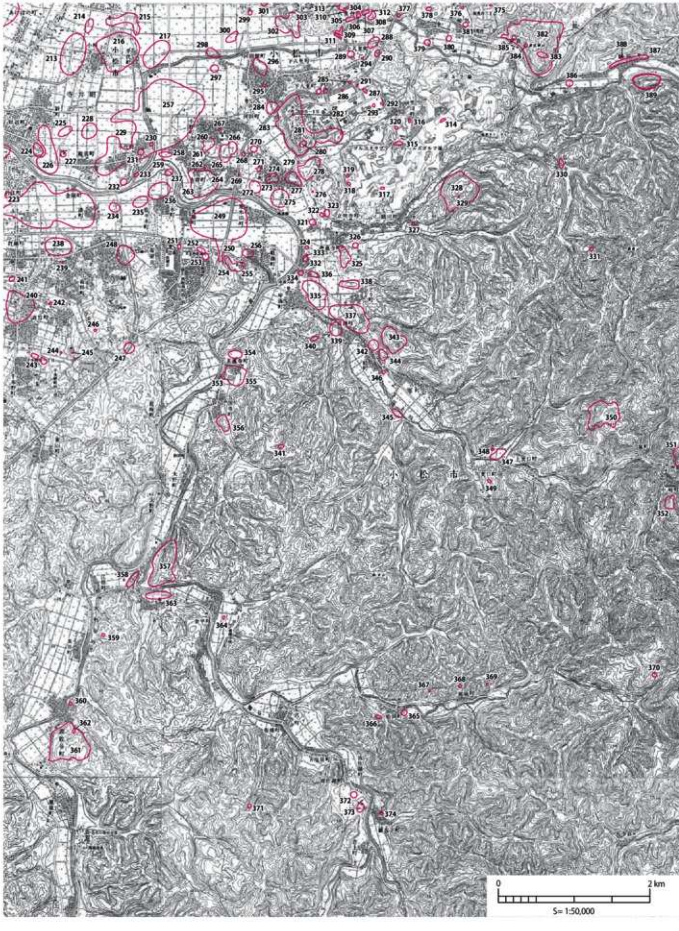
第 2図　小松市の地形

３　梯川氾濫原

梯川は掃流力が弱く、自然堤防の発達が悪い平坦な沖積平野を形成した。河道が南に折れる地点が小松城跡で、小松町は埋没したもっとも内陸側の浜堤列上に立地している。梯川氾濫原はこれより下流には形成されず、河道は手取川氾濫原との境界に当たる最も低い位置にある。複雑に蛇行する河道はしばしば氾濫したため、明治維新直後から河道の直線化工事が繰り返さ



第３図　遺跡分布図


0
2 km
S= 1:50,000

れてきた。明治 44 年～大正 12 年に石田橋～安宅間の開削工事により、現在の河道になり、河川改修は現在も続いている。

本報告で言う梯川氾濫原とは、事実上、梯川と今江潟・木場潟を結んだ領域を指している。図 2 に表示はないが、この領域には明治 20 年頃までは扇形に小河道群が残っており、灌漑に利用されていた。この中央を貫流していた猫橋川が本流とされ、これら小河道群は、氾濫原を形成した梯川旧河道群と見なされる。傾斜の少ない平坦な地形はしばしば湛水被害を引き起こし、明治 32 年の耕地整理法以降、用水確保と湛水防除の必要から用排水路の整備が繰り返し行われた。

第 2 節　歴史的環境

1　旧石器～縄文時代の遺跡

発見例自体は決して少なくないが、小松市内では資料が乏しい。能美丘陵界隈で言えば、河田山遺跡（276）や八里向山 A ～ F 遺跡（304 ～ 309）など、散発的に遺物や遺構が確認された例はあるが、集落遺跡としての確認例は断片的である。能美市能美丘陵東遺跡群では、宮竹庄が屋敷 A ～ D 遺跡や宮竹うっしょやま A･B 遺跡（いずれも図郭外）など、縄文時代中期を中心に豊富な資料を得るに至っている。遺跡のほぼ全域を調査したこの両者は非常に好対称をなしている。

一方、月津台地では、念仏林遺跡（37）が集落遺跡としては代表的な調査例と言えるだろう。近現代の開発も含め、多くが後世の破壊を受けて潰滅的な状態の中で、集落像の一事例を提供している。能美丘陵でも月津台地でも、縄文時代の集落遺跡の多くは短期間に営まれた小集落で、南加賀では能美丘陵が分布的中心をなすと見なされる。

2　弥生時代の遺跡

八日市地方遺跡（198）が大規模な環濠集落として特筆され、中期はここだけに収斂する趨勢であり、後期頃から古墳時代前期にかけて梯川周辺に広い範囲に集落が点在する景観となる。代表的なところでは、高堂（たかんどう）遺跡（図郭外）、大長野 A 遺跡（213）、漆町遺跡（223）、荒木田遺跡（249）のように、広大な領域の複合遺跡で法仏期頃以降の遺物が出土していて、月影期頃にかけては、河田山遺跡（280）や八里向山 A 遺跡（304）で高地性集落が確認されている。ただ注意が必要なのは、広大な領域の複合遺跡というのは、現集落からはずれた範囲であることが前提であり、範囲の狭小な遺跡は、現集落と重複して確認できないことが多い。

3　古　墳

能美地域の首長墓の系譜とされる末寺山 5・6 号墳、秋常山 1 号墳、和田山 5 号墳（いずれも図郭外）を擁する能美古墳群が手取川河道域と目される領域の南に接して築造される。造墓は弥生時代末に始まり、古墳時代を通じて造墓が継続する、能美地域の中核的古墳群と評価されている。

能美丘陵界隈では、中期後半以降、河田山古墳群（281）や下開発茶臼山古墳群（図郭外）など、中小規模の円墳・方墳が尾根筋に密集して混在ないしいずれかのみの構成で築造される群集墳が各所に分布する。また、平野部では、千代オオキダ遺跡（229）で、削平された方墳からなる前期段階の古墳群が発見され、新たな知見を得るに至っている。

月津台地では、小規模な後期古墳が疎らに分布する趨勢で「三湖台古墳群」と総称され、古墳群としては江沼地域に属する。造墓が始まる早い段階では臼のほぞ古墳（44）や御幸塚古墳（82）などの中規模の前方後円墳が見られるが、主体は小規模な円墳で、埴輪を伴う。矢田借屋古墳群（52）のような密集する造墓のあり方は、三湖台古墳群では今のところ特異な事例といえるだろう。

埋葬施設は、木棺直葬から後期前半に木芯粘土室、さらに後半に切石積横穴式石室が採用される。

4　古墳時代～古代・中世の遺跡

集落遺跡の趨勢で言えば、6 世紀以降 8 世紀にかけては集落の再編期に当たり、相対的に資料が稀薄になる傾向があり、7 世紀頃を前後して廃絶する集落と出現する集落がある。

7 世紀代の月津台地では、額見町遺跡（32）の発掘調査以降、矢田野遺跡（43）、薬師遺跡（70）でＬ字形カマドを設えた竪穴建物跡の発見が相次ぎ、渡来系移民の動静が、本場潟を挟む対岸の江沼丘陵を占地する古代製鉄遺跡群の趨勢との相関性において注目される。

梯川氾濫原地域に目を転じると、8 世紀、在郷の財氏（ひと）関連遺跡とされる佐々木遺跡（234）が異彩を放つほかは、概ね盛期が 9 世紀後半～ 10 世紀前半になる傾向が知られている。墨書土器をはじめとして、施釉陶器や風字硯など、上級に格付けされる遺物が出土するものの、大型建物や倉庫群といった目立つ遺構の発見例に恵まれず、集落遺跡の評価を難しくしている。

寺院跡として、図 3 には中宮八院（323、326、335、342、354、355、356、359）を表示しているが、現状は伝承地の域を出ない。発掘調査された寺院跡として、浄水寺（きよみずでら）跡（247）、八里向山 B 遺跡（305）、里川 E 遺跡（318）が、いずれも加賀立国以後、中宮八院以前に成立した山林寺院に位置づけられ、浄水寺のほかは短期間で廃絶している。また、松谷寺跡（356）では、8 世紀前半に遡る古代山林寺院跡が確認され、「松谷廃寺」として名称上の区別を明確にして取り扱うこととなった。なお、同調査で「松谷寺」は確認に至っていない。

製陶遺跡群について、6 世紀前半には二ツ梨東山古窯跡（105）で須恵器生産を開始し、二ツ梨豆岡向山古窯跡群（100）、二ツ梨殿様池古窯跡群（101）で埴輪を焼成した窯も確認されており、江沼地域の古墳出土埴輪の供給地と考えられている。以後、10 世紀中頃まで操業が続く南加賀古窯跡群が江沼丘陵を占地する。一方の能美丘陵では、7 世紀前半に八里向山 J 遺跡（地蔵谷古窯跡：313）で須恵器生産を開始し、同後半代には湯屋古窯跡群（図郭外）に操業の拠点を移動する。8 世紀前半には和気古窯跡群（図郭外）へさらに移動し、9 世紀前半まで窯を移動しながら操業が続き、疎らな窯跡群を残した。これら能美市和気地区の窯跡群は、能美古窯跡群の南群として括られ、窯 1 基あたりの出土量が多い特徴が知られている。南加賀古窯跡群との比較では、操業の盛衰が補完的な傾向が指摘される一方で、技術的・供給的に両者の異質性も指摘されている。

これら製陶遺跡群とほぼ重複して、製鉄遺跡群も分布する。遺跡の性質上、時代不詳の遺跡は多いが、現在までに知られる最古の例として、蓮代寺ガッショウタン遺跡（185）で製鉄に伴うと見られる製炭窯が 7 世紀後半～末ないし 8 世紀初頭に比定されている。

律令期～中世には、各所で荘園が開発されるが、発掘調査でこれに関連する成果として、徳久・荒屋遺跡、下開発遺跡（いずれも図郭外）が律令期に成立した東大寺領幡生荘に比定されている。また、白江梯川遺跡（220）、漆町遺跡（223）は中世に皇室領や京都妙法院領として経営された南白江荘に関連する遺跡とされ、前者は在地領主層の拠点となる領域と考えられている。白江堡跡(221)は、『能美郡誌』によれば、従前の白江念仏寺塔遺跡（漆町遺跡：223）周辺が推定地の一つに上がっていたが、『石川県遺跡地図』に記載される内容と、従来プロットされていた旧白江墓地で埋蔵文化財が存在しなかった事実を勘案すれば、現在までの情報に照らす限りは、ここに比定すべきだろう。

5　中世の城館・寺院・窯跡

中世城館跡や中世寺院跡は、文献や口碑によるところが大きく、その多くは一向一揆にまつわるものである。近代の耕地整理で破壊を受けた遺跡が多く、調査が入った事例も極めて乏しいが、岩渕城跡（343）、岩倉城跡（350）、波佐谷城跡（361）など、分布調査で縄張図が作成されている。

中世窯業について、古代の南加賀古窯跡群の分布域にほぼ重複して、在地瓷器系窯、いわゆる「加

賀窯」が分布する。常滑窯の技術に基づく窯で、甕を中心とした日用雑器類の生産が主力であったとされる。操業の期間が短く、12 世紀末までには二ツ梨奥谷 1 号窯（108）で操業を開始し、湯上谷古窯跡群（143）で盛期を迎えるが、これを最後に 14 世紀代に一旦途絶え、西荒谷カマンダニ窯（図郭外）で越前窯の技術移植により一時操業するが、現在までに流通は確認されておらず、程なく終焉したといわれている。

6　近世～現代

1640（寛永 17）年、藩主を退いた前田利常の小松城入城を契機として、城下町としての小松町が成立するが、関連するところで大川遺跡・東町遺跡（196）が埋蔵文化財包蔵地（近世の町屋跡）として周知化されている。大川遺跡では発掘調査も実施され、小松市でも近世城下町の町屋の様相が明らかになりつつある。なお、前田利常の没後、亡骸は三宅野（現在の小松市河田町地内）で荼毘に付されたとされており、灰塚（268）が伝わっている。

近代窯業の関連で、南加賀では 19 世紀初めに加賀藩窯としての若杉窯（239）に始まるいわゆる再興九谷は、肥前系の染付・色絵の技術を移植して操業が軌道に乗り、若杉窯で技術を習得した陶工らによって、蓮代寺窯（188）、小野窯（267）などの民窯も操業を始めた。近代以降も民営の製陶業は引き継がれている。窯業という括りで言えば、再興九谷とほぼ時期を同じくして越前より技術移植して操業が始まる製瓦業も現代に引き継がれ、製品は「小松瓦」と呼ばれる。

さて、現集落の多くは近世以降に興った集落であり、地名も、郷名または荘園、中宮八院に所以を持つものなど見られるが、集落自体に直接の関係はなく、地名伝承にも不確かな部分が多い。史実で確かめられる伝承でも、例えば、一向一揆の古戦場伝承が古墳と結びついたり（土百（とびゃく）古墳：81）、戦国末期の武将の墓と伝承される塚が古墳であったり（左門殿（さもんどの）古墳：45）するなど、類似の事例はいくつか明らかになっている。加賀国府・国分寺や中宮八院などの文献史の分野で研究が進んでいる場合でも、伝承地が曖昧であったり複数あるなど、所在が確認できない現状を抱えている。

第 1 表　遺跡地名表

No	名　　称	種　　別	時　　代	備　　考
1	柴山水底貝塚	貝塚	縄文	
2	柴山中世墓	その他の墓	中世	
3	柴山神社遺跡	散布地	不詳	
4	柴山城跡	城館跡	中世	
5	一百 A 遺跡	散布地	古墳～古代	
6	柴山貝塚	貝塚・集落跡 集落跡	縄文 古代	加賀市指定史跡
7	柴山水底遺跡	貝塚	弥生	柴山由村遺跡 A 地点に所在する貝塚
8	柴山由村遺跡（A 地点） 柴山由村遺跡（B 地点）	集落跡 集落跡	弥生 古代～中世	柴山貝塚に隣接する地点
9	山の上遺跡	散布地	縄文	
10	佐美経塚	経塚	不詳	
11	日末経塚	経塚	不詳	
12	分河遺跡	散布地	不詳	
13	勅使遺跡	散布地	古代（平安）	
14	勅使遺跡	散布地 集落跡	縄文 弥生～中世	
15	都名どり地蔵遺跡	散布地	古代	
16	勅使遺跡	寺院跡	中世（室町）	
17	梶川衛生センター遺跡	散布地	古代	
18	梶川遺跡	散布地	古代	
19	分校 A 遺跡	散布地	古墳	
20	分校 B 遺跡	散布地	古代（平安）	
21	分校山王古墳群	古墳	古墳	円墳 2
22	分校ケンヒ山古墳群	古墳	古墳	前方後円墳 3，円墳 10，方墳 6
23	分校高山古墳	古墳	古墳	前方後円墳
24	打越 A 遺跡	散布地	縄文	
25	打越 B 遺跡	散布地	弥生	
26	打越城跡	城館跡	中世（安土桃山）	
27	熊坂町西遺跡	集落跡	弥生～中世	
28	茶臼山 A 遺跡 茶臼山 B 遺跡	散布地 散布地	不詳 縄文	
29	茶臼山祭祀遺跡	その他（祭祀）	古代（奈良）	

No	名　　称	種　　別	時　　代	備　　考
30	月津才ヵ遺跡	散布地	古墳・中世	
31	月津A遺跡	散布地	古代（奈良）	
32	服見町遺跡	散布地	縄文	
		集落跡	古墳～中世	
33	服見神社前A遺跡	散布地	古墳	服見町遺跡の一部
34	服見神社前B遺跡	散布地	縄文	服見町遺跡の一部
35	津町遺跡	散布地	縄文・不詳	
36	月津新遺跡	散布地	縄文・古代	
37	念仏林遺跡	集落跡	縄文	
38	念仏林南遺跡	集落跡	弥生～古墳	
39	矢田原遺跡	集落跡	古代（奈良）	
40	刀同理遺跡	散布地	縄文	
		集落跡	古代～中世	
41	矢田A遺跡	散布地	縄文	
42	矢田B遺跡	散布地	古墳	矢田野遺跡の一部
43	矢田野遺跡	集落跡	古墳～古代	
44	白口迫平古墳	古墳	古墳	前方後円墳
45	左門殿古墳	古墳	古墳	円墳
46	茶臼山古墳	古墳	古墳	円墳，2段築成
47	興宗寺古墳	古墳	古墳	円墳
48	念仏塚古墳	古墳	古墳	円墳
49	念仏林古墳	古墳	古墳	円墳，木芯粘土室
50	丸山古墳	古墳	古墳	円墳，切石積横穴式石室，家形石棺
51	鳶森塚古墳	古墳	古墳	円墳又は前方後円墳
52	矢田野古墳群	古墳	古墳	円墳 14，前方後円墳 3，不明 1，木芯粘土室
53	百人塚古墳	古墳	古墳	円墳
54	矢田野古墳群	古墳	古墳	円墳 3，前方後円墳 1
55	矢田野エジリ古墳	古墳	古墳	前方後円墳
56	鶴輪塚古墳	古墳	古墳	前方後円墳
57	狩津石山古墳	古墳	古墳	円墳，切石積横穴式石室
58	中村古墳	古墳	古墳	円墳，切石積横穴式石室
59	矢田野神社前遺跡	散布地	古代（平安）	
60	下城津A横穴群	横穴墓	不詳	横穴7～8
61	鼎師塚	墳墓	不詳	
62	下城津B横穴群	横穴墓	不詳	横穴2
63	**島遺跡**	**集落跡**	**弥生～中世**	
64	島B遺跡	散布地	古代	
65	島C遺跡	散布地	古墳	方墳？
66	狩津A遺跡	散布地	縄文	
67	狩津B遺跡	散布地	縄文	
68	狩津C遺跡	集落跡	古墳	
69	**矢崎堂の下遺跡**	**集落跡**	**縄文～中世**	
70	**重師遺跡**	**集落跡**	**古墳～古代**	
71	市ケンノヤマA遺跡	散布地	古代（奈良）	
72	市ケンノヤマB遺跡	散布地	古墳	
73	市ケンノヤマC遺跡	散布地	古墳	
74	今江向ノ山遺跡	散布地	弥生	
75	鷲山遺跡	集落跡	古墳	
76	土口遺跡	散布地	縄文	
77	今江五丁目遺跡	集落跡	縄文・古墳	
78	五郎神貝塚	貝塚	縄文	
79	矢崎B古墳	古墳	古墳	
80	鷲山古墳	古墳	古墳	
81	土口古墳	古墳	古墳	
82	静幸城古墳	古墳	古墳	前方後円墳，小松市指定史跡
83	今江横穴群	横穴墓	不詳	横穴4
84	静幸城跡	城郭跡	中世	土豪と曲輪の一部
85	市古窯跡	生産遺跡	中世末	製陶
86	江末瓦窯跡	生産遺跡	近世前期	瓦窯
87	大領遺跡	散布地	古代	
88	浅川鍛冶屋場	その他の墓	中世末	墓指定史跡
89	林廻修寺跡	社寺跡	不詳	
90	林遺跡（林タカヤマ古窯跡群）	生産遺跡	古墳	須恵器窯3，南加賀古窯跡北群
	林遺跡（林オオカミダニ古窯跡群）	生産遺跡	古墳	須恵器窯2，土師器1，南加賀古窯跡北群
	林遺跡（林製鉄跡）	生産遺跡	古代	製鉄炉2，製炭窯4，鍛冶炉2，鞴羽口2
91	戸津5・12号窯跡	生産遺跡	古代（平安）	須恵器窯2，南加賀古窯跡北群
	戸津シンブザワ製鉄跡	生産遺跡	古代（平安）	製鉄炉4，製炭窯3
92	戸津古窯跡群	生産遺跡	古代，中世（鎌倉）	須恵器窯36（丸陶兼窯5），土師器焼19，製炭窯2，加賀窯1，南加賀古窯跡北群
93	戸津バテ谷古窯跡群	生産遺跡	古墳	須恵器窯7，製炭窯1，南加賀古窯跡北群
94	戸津1号窯跡	生産遺跡	古代（平安）	製炭窯
	戸津ワタゾニ遺跡	生産遺跡	不詳	製鉄炉1，製炭窯1
95	戸津ショウガダニ遺跡	生産遺跡	古代（平安）	須恵器窯1，製鉄炉1，南加賀古窯跡北群
96	戸津2号窯跡	生産遺跡	不詳	製炭窯
	戸津アナヤマ窯跡	生産遺跡	不詳	製炭窯
97	戸津オオタニ遺跡	生産遺跡	古代（奈良）	須恵器窯2，製鉄炉1，南加賀古窯跡北群
98	二ツ梨一貫山古窯跡群	生産遺跡	古代	須恵器窯12，土師器14，製鉄炉1，製炭窯2，南加賀古窯跡北群
99	二ツ梨宮坂山古窯跡群	生産遺跡	古墳・古代	須恵器窯4
100	二ツ梨宮坂山古窯跡群	生産遺跡	古墳～古代	須恵器窯13（胡陶兼窯2，長陶兼窯2），南加賀古窯跡北群
101	二ツ梨横峰池古窯跡群	生産遺跡	古墳（古代（平安））	須恵器窯（胡陶兼窯）3，土師器13，3，南加賀古窯跡北群
102	二ツ梨ゲミオバラ古窯跡群	生産遺跡	古代	土師器14，須恵器窯，南加賀古窯跡北群
103	二ツ梨丸山古窯跡群	生産遺跡	古墳	須恵器窯3，南加賀古窯跡北群
104	二ツ梨峠山古窯跡群	生産遺跡	古墳	須恵器窯8，南加賀古窯跡北群
105	二ツ梨東山古窯跡群	生産遺跡	古墳	須恵器窯5，南加賀古窯跡北群
106	二ツ梨稲荷遺跡	生産遺跡	古代（奈良）	須恵器窯1，製鉄1，製炭窯1，南加賀古窯跡北群
107	二ツ梨横川遺跡	生産遺跡	古代（奈良）	須恵器窯1，製鉄1，南加賀古窯跡北群

No	名　　称	種　　別	時　　代	備　　考
108	二ツ梨梨谷1遺跡	生産遺跡	古代（平安末）	泥磨跡第2、加賀第1、南加賀古墳跡北群
109	二ツ梨梨谷1～2号製鉄跡	生産遺跡	不詳	製鉄2
110	二ツ梨谷古墳跡群	生産遺跡	古代	泥磨跡第6（高岡東第11）、南加賀古墳跡北群
111	二ツ梨カモイ谷古墳跡群	生産遺跡	不詳	泥磨跡第2、南加賀古墳跡北群
112	矢田野向山古墳跡群	生産遺跡	古代（奈良）・中世（鎌倉）	泥磨跡第6、南加賀古墳跡北群
113	矢田野高尾山遺跡	生産遺跡	古代（奈良）・中世（鎌倉）	泥磨跡第4、加賀第2、製鉄3、南加賀古墳跡北群
114	箱宮ドウガヤチ古墳跡群	生産遺跡	古代（奈良）・中世（鎌倉）	泥磨跡第6、加賀第2、南加賀古墳跡北群
115	箱宮A遺跡	窯業地	中世	
116	箱宮B遺跡	窯業地	中世	
117	小天王谷1～2号遺跡	生産遺跡	中世（鎌倉）	加賀第2
118	小天王谷1号製鉄跡（天王山1号製鉄跡）	生産遺跡	不詳	製鉄4
119	小天王谷2～3号製鉄跡	生産遺跡	不詳	製鉄2
120	大乃谷5 1～2号製鉄跡	生産遺跡	不詳	製鉄2
121	大乃谷6古墳跡	生産遺跡	不詳	
122	都谷1号窯跡	生産遺跡	中世（鎌倉）	加賀第
123	矢田野カキウリダニ製鉄跡	生産遺跡	不詳	製鉄3
124	矢田野1～2号横穴	横穴墓	不詳	
125	都谷1～5号横穴	横穴墓	不詳	
126	都谷6号横穴	横穴墓	不詳	
127	都谷西山谷製鉄跡	生産遺跡	不詳	製鉄3
128	上荒屋エルイデン製鉄跡	生産遺跡	不詳	製鉄3
129	上荒屋ジャモンダニ遺跡	生産遺跡	古代（平安）	泥磨跡第4、製鉄3、南加賀古墳跡北群
130	上荒屋サンマイダニ遺跡	生産遺跡	古代（平安）	泥磨跡第4～5、製鉄2、横穴1、地下式炭1、南加賀古墳跡北群
131	上荒屋サンマイダニ中々古墳跡群	生産遺跡	古墳・古代（奈良）	泥磨跡第4、南加賀古墳跡北群
132	上荒屋ネダン古墳跡群	生産遺跡	古代（奈良）	泥磨跡第2、南加賀古墳跡北群
133	上荒屋トリダニ古墳跡群	生産遺跡	古代（奈良）・中世（鎌倉）	泥磨跡第1、加賀第1、製鉄9？、南加賀古墳跡北群
134	上荒屋オジマヤマ古墳跡群	生産遺跡	中世（鎌倉）	泥磨跡第3、加賀第4、製鉄9？1
135	戸津1～2号製鉄跡	生産遺跡	不詳	製鉄9？2
136	戸津本蓮寺跡	社寺跡	中世（室町）	
137	戸津八幡神社前遺跡	窯業地	古代～中世	
138	上荒屋都谷1遺跡	生産遺跡	不詳	製鉄9？1
139	鳥場二カヤマ遺跡	生産遺跡	古代（平安）	泥磨跡第1、製鉄9？1、南加賀古墳跡北群
140	鳥場ニ七ヤ遺跡	生産遺跡	不詳	製鉄9？1
141	上荒屋ホウジョウカヤマ遺跡	生産遺跡、社寺跡、墳墓	古代（平安）～中世	泥磨跡第5、製鉄9？2、墳墓、南加賀古墳跡北群
142	上荒屋ハカンタニ古墳跡群	生産遺跡	中世（鎌倉）	加賀第2
143	湯上谷古墳跡群	生産遺跡	中世（鎌倉）	加賀第10、製鉄9？2
144	西郷フルセンネ製鉄跡	生産遺跡	不詳	製鉄
145	西郷ムカヤマカナクソ製鉄跡	生産遺跡	不詳	製鉄2
146	牧ヨキドウ製鉄跡	生産遺跡	不詳	製鉄2
147	牧1 神供屋跡	墳墓	中世（鎌倉）	牧郷屋敷定地
148	江口田ドヤマ製鉄跡	生産遺跡	不詳	製鉄9？複数
149	用1神社製鉄跡	生産遺跡	不詳	製鉄
150	用1エンドウ製鉄跡	生産遺跡	不詳	製鉄
151	用1遺跡	窯業地	不詳	
152	林八幡神社経塚	経塚	中世（鎌倉）	
153	林製跡	城館跡	中世	
154	津波倉神社遺跡	窯業地	中世	
155	津波倉ホットトノ遺跡	横穴墓	中世（室町末）	地下式炭6、2基調査
156	大谷山経塚	経塚	鎌倉	
157	小山田コザダニ遺跡	窯業地	不詳	鉱津窯跡地
158	小山田スギドド製鉄跡	生産遺跡	不詳	製鉄9？2
159	小山田オウザダニ製鉄跡	生産遺跡	不詳	製鉄9？2
160	津波倉ハケマイダニ製鉄跡	生産遺跡	不詳	製鉄9？1、製炭窯複数
161	本場古墳群	古墳	古墳	円墳4
162	本場古墳	古墳	古墳	地元で池田城跡とされる
163	池田城跡	城館跡	不詳	
164	本場温泉遺跡	窯業地	鎌倉	
165	本場A遺跡（本場遺跡H地区）	生産遺跡	古代（奈良）	製鉄9？1、製炭窯2
166	本場B遺跡	窯業地	古代（平安）～中世	
167	本場C遺跡	窯業地	弥生	
168	本場遺跡A地区（1号遺跡）	生産遺跡	古代（平安）	製炭窯3、鉱津窯布地
169	本場遺跡B地区（2号遺跡）	生産遺跡	古代（平安）	製鉄9？2、製炭窯2
170	本場遺跡C地区（3号遺跡）	生産遺跡	不詳	製鉄
171	本場遺跡D地区（4号遺跡）	生産遺跡	不詳	製鉄9？1、製炭窯1
172	本場遺跡E地区（5号遺跡）	生産遺跡	不詳	製鉄
173	本場遺跡F地区（6号遺跡）	生産遺跡	不詳	製鉄
174	本場遺跡G地区（7号遺跡）	生産遺跡	不詳	製鉄9？
175	本場遺跡D地区（8号遺跡）	横穴墓	不詳	横穴1
176	大曲遺跡	窯業地	不詳	鉱津窯布地
177	百谷窯跡屋の山遺跡	窯業地	不詳	鉱津窯布地
178	三谷遺跡	窯業地	鎌倉	
179	三谷B遺跡	窯業地	弥生～古墳	
180	三谷トガ谷遺跡	不詳	不詳	現在又は塚
181	三谷大谷遺跡	集落跡	古代～中世	
182	三谷大谷製鉄跡	生産遺跡	不詳	製鉄9？1、鉱津窯布地
183	瀬谷寺城跡	城館跡	不詳	小島橋立弾跡か
184	瀬代寺ムコンヤマ製鉄跡	生産遺跡	中世（鎌倉）	製鉄9？1、製炭窯1
185	瀬代寺ガッショウタン遺跡	生産遺跡	古墳	製炭窯3、鉱津窯布地
186	瀬代寺A遺跡	窯業地	不詳	鉱津窯布地
187	本江古墳跡	生産遺跡	近世	製陶
188	瀬代寺墳跡	生産遺跡	近世末	再興九谷「瀬代寺窯」
189	瀬代寺古墳跡	生産遺跡	近世前期	慣五窯
190	瀬谷寺跡	社寺跡	中世	岩川氏菩提寺「瀬谷寺」比定地
191	安宅関	その他	不詳	関所定史跡
192	安宅江吉神社遺跡	窯業地	不詳	
193	安宅中世墓群	その他の墓	中世（室町）	
194	安宅大塚古墳	不詳	不詳	墓石説とも現在の墓石とも、現在せず

No	名　　称	種　　別	時　　代	備　　考
195	小松城跡	城郭跡	近世	本丸・二ノ丸・三ノ丸の一部、本丸櫓台は小松市指定史跡
196-1	大可連跡	町屋跡	近世	近世小松城下町・武家の町屋跡
196-2	東町連跡	町屋跡	近世	近世小松城下町・東町の町屋跡
197	中町遺跡	生産遺跡	中世（室町）	鍛冶
198	各尺神社境内遺跡	散布地	中世（室町）	埋蔵銭出土地
199	本折城跡	城郭跡		本折氏居館跡伝承地の一
200	八日市地方遺跡	散布地	縄文・中世	
		集落跡	弥生	環壕集落
201	上小松遺跡	散布地	古代（平安）	
202	国府遺跡	集落跡	弥生	
203	福田鉄橋遺跡	散布地	弥生	福田に分断された石川側包蔵地
204	福田鉄橋Ⅱ遺跡	散布地	弥生	福田に分断された石川側包蔵地
205	苗田A遺跡	散布地	古墳～古代	
206	苗田B遺跡	散布地	古墳	
207	御館遺跡	城郭跡	中世（室町）	
208	鵜原遺跡	散布地	弥生～古代	
		集落跡	中世	一向一揆・梶川新七郎承応側伝承地
209	福遺跡	散布地	弥生～古代	
		集落跡	中世	
210	松梨遺跡	散布地	縄文～弥生・中世	
		集落跡	古墳～古代	
211	苗田遺跡	散布地	弥生～古墳	
212	苗田南遺跡	散布地	弥生・古代（平安）	
		集落跡	中世（室町）	
213	大長野A遺跡	集落跡	弥生～中世	
214	大長野B遺跡	散布地	不詳	
215	牛島西の島遺跡	集落跡	古代（平安）	
216	下代デジロ遺跡	集落跡	弥生～中世	
217	牛島ウハン遺跡	集落跡	縄文～中世	
218	平面福田遺跡	集落跡	弥生	福田に分断された石川側包蔵地
219	平面福田B遺跡	散布地	弥生	福田に分断された石川側包蔵地
220	江口福田遺跡	集落跡	弥生・中世	
221	江口館跡	城郭跡	中世（室町）	江口新助景盛居館伝承
222	江口遺跡	散布地	古墳～中世	浦町遺跡の一部
223	浦町遺跡	集落跡	弥生～中世	
224	一針遺跡	散布地	縄文	
225	一針B遺跡	集落跡	弥生～古墳	
226	一針C遺跡	集落跡	弥生～古墳	
227	定地切跡	社寺跡	中世（室町）	
228	千代・能美遺跡	集落跡	古墳～中世	
229	千代オオキダ遺跡	散布地	縄文～弥生	
		集落跡	弥生～中世	
		古墳	古墳	古墳6
230	千代小相町遺跡	散布地	古墳	
231	千代城跡	城郭跡	中世（室町）	
232	千代本村遺跡	散布地	古墳	
233	横地遺跡	散布地	縄文	
234	佐々木遺跡	集落跡	古代	現代居宅跡（余良）
235	佐々木ノタクウラ遺跡	集落跡	弥生～中世	
236	佐々木デサバタケ遺跡	集落跡	弥生～中世	
237	佐々木デサバタケB遺跡	集落跡	余良～平安	
238	打越遺跡	散布地	古代	
239	若杉遺跡	生産遺跡	近世末	両側九谷「若杉窯」、連房式登窯
240	古竹遺跡	集落跡	弥生～中世	
241	古竹B遺跡（古竹遺跡19地区）	散布地	古墳～中世	国道の開跡
242	古竹C遺跡	集落跡	弥生～中世	
243	千本野遺跡	散布地	縄文	
	千本野(A)遺跡	古墳	古墳	方墳8
	千本野(B)遺跡	集落跡	古墳	
244	鵜生1号墳	古墳	古墳	所在不詳、現存するのは現代残土の山
245	釜谷古墳・釜谷2号墳	古墳	古墳	短小横穴式石室
246	若杉オンボロ山1号墳跡	生産遺跡	古墳	須恵器窯
247	浄水寺跡	社寺跡	古代～中世	創建は加賀国府・国分寺周辺山麓寺院跡の一
248	八幡遺跡	散布地	縄文	
		集落跡	弥生～古墳・古代（余良）・中世（藤井）	
		その他の墓	古代（平安）	土坑墓
	八幡古墳群	古墳	古墳	円墳8、木芯粘土槨
	八幡村窯跡	生産遺跡	近世末	両側九谷「八幡村窯」、八幡6号墳を削平して築いた連房式登窯
249	荒木田遺跡	集落跡	古墳～中世	
250	粟瀬西弁寺遺跡	集落跡	縄文～中世	
251	大区1遺跡	散布地	弥生	
252	粟瀬遺跡	散布地	弥生～中世	
253	亀山遺跡	生産遺跡	古墳	玉作
254	粟瀬中世墓群	その他の墓	中世（室町）	集石墓9
255	粟瀬廃寺	社寺跡	古代（平安）	大興寺伝承地
256	西野寺遺跡	社寺跡	古代（平安）	西野寺伝承地
257	古町しのまち遺跡	集落跡	弥生～古代	
258	古町遺跡	集落跡	古代（平安）	
259	古町フドンド遺跡	散布地	古代（平安）	
260	十九坊山中世墓群	社寺跡	古代（平安）	加賀国分寺推定地
261	十九坊山中世墓群	その他の墓	中世（室町）	
262	古谷横穴	不詳	不詳	
263	古谷シマ遺跡	散布地	古代（平安）～中世	加賀国総社関連
264	南野台遺跡	散布地	縄文・平安～中世	加賀国総社関連
265	小野遺跡	集落跡	古代（平安）	加賀国府推定地の一個
266	小野スギノキ遺跡	集落跡	古代（平安）	加賀国府推定地の一個

No	名　　称	種　　別	時　　代	備　　考
267	小野窯跡	生産遺跡	近世末	梅鉢九谷「小野窯」
268	前田利常公民家	その他の墓	近世	前田利常公が茶道に付きれた焼とされる
269	植田口墓塚	その他	近世末	苦市の菩提供養と藩政力法を記した石柱。小松市指定史跡
270	植田ミヤタ遺跡	散布地	不詳	
271	植田ヒケンタン遺跡	散布地	不詳	
272	植田クラムキ遺跡	散布地	古代～中世	
273	植田フルカワ遺跡	散布地	古墳	
274	宮谷寺屋敷遺跡	散布地	縄文・中世（室町）	
275	植田遺跡	散布地	古代	
276	植田塚	不詳	不詳	
277	植田地山古墳群	古墳	古墳	円墳9、木棺直葬、木芯粘土室
278	植田古古墳群	古墳	古墳	円墳12、方墳4
279	鍛冶屋地古墳	古墳	古墳	円墳
280	河田山遺跡	散布地	旧石器～縄文	
		集落跡	弥生	高地性集落、河田山10～12号墳が重複
		その他の墓	古代（奈良）	火葬墓、河田山1号墳の西側に所在
281	河田山古墳群	古墳	古墳	前方後円墳2、前方後方墳2、円墳22、方墳34、不明1、木棺直葬、木芯粘土室、切石積横穴式石室
	河田横穴	横穴墓	不詳	地下式坑、河田山54号墳の南に隣り
282	河田山1号窯跡	生産遺跡	古代（奈良）	須恵器窯、能美古窯跡南部　八里・河田山支群、河田山60号墳の北西斜面に所在
	河田山古窯跡	生産遺跡	不詳	須恵器窯、能美古窯跡南部　八里・河田山支群
283	河田B遺跡	散布地	縄文・古代（奈良）	
284	河田C遺跡	散布地	不詳	
285	下八里横穴群	横穴墓	不詳	地下式坑6、横穴1、不明1、3地点で計8基
286	六塚横穴群	横穴墓	不詳	横穴2基
287	上八里横穴群	横穴墓	中世（室町）	横穴11基
288	上八里中世墓跡	その他の墓	中世（室町）	
289	上八里A遺跡	散布地	縄文・古代（平安）	
290	上八里B遺跡	散布地	古代（奈良）	
291	上八里C遺跡	横穴墓	古墳	横穴2基
292	上八里D遺跡	散布地	古代（奈良）	須恵器窯、能美古窯跡南部　八里・河田山支群
293	上八里1号窯跡	生産遺跡	古代（奈良）	須恵器窯、能美古窯跡南部　八里・河田山支群
294	上八里2号窯跡	生産遺跡	不詳	地下式窯跡、能美古窯跡南部　八里・河田山支群
295	谷内横穴	不詳	不詳	
296	河田遺跡	散布地	縄文・中世	
297	下向地町遺跡	散布地	不詳	
298	佐野A遺跡	散布地	弥生	
299	佐野B遺跡	散布地	古墳	
300	佐野八反田遺跡	散布地	古代	
301	佐野神社前遺跡	散布地	古代（平安）	
302	河田山下遺跡	散布地	縄文・古代（平安）	
303	河田山古墳群	古墳	古墳	円墳7
304	八里山A遺跡	散布地	縄文	
		集落跡	弥生	高地性集落
305	八里山B遺跡	散布地	旧石器～縄文	
		社寺跡	古代（奈良）	加賀国府・国分寺周辺山林寺院群の一
306	八里山C遺跡	散布地	旧石器～縄文・古代（奈良）	
		集落跡	弥生	
		古墳	古墳	前方後方墳1、木棺直葬
307	八里山D遺跡	散布地	旧石器～縄文	
		集落跡	弥生～古墳	
		古墳	古墳	方墳2、木棺直葬
308	八里山E遺跡	散布地	旧石器～縄文	
		古墳	古墳	方墳1
		集落跡	古代	
309	八里山F遺跡	散布地	縄文	
		古墳	古墳	円墳10、木棺直葬
		その他の墓・横穴墓	中世（室町）	集石墓1、横穴3
310	八里山G遺跡	散布地	弥生・古代（平安）	
311	八里山H遺跡	その他の墓	中世（鎌倉）	集石墓群、96基調査
312	八里山I遺跡	生産遺跡	古代（奈良）	須恵器窯、能美古窯跡南部　八里・泉台支群
313	八里山J遺跡	生産遺跡	古墳	須恵器窯、能美古窯跡南部　八里・泉台支群
314	里田A遺跡	生産遺跡	不詳	製炭窯2、製炭民跡20
315	里田B遺跡	生産遺跡	不詳	製炭窯
316	里田C遺跡	生産遺跡	不詳	製炭窯
317	里田D遺跡	散布地	縄文	
318	里田E遺跡	社寺跡	古代（平安）	加賀国府・国分寺周辺山林寺院群の一
319	里田F遺跡	社寺跡	古代（平安）	加賀国府・国分寺周辺山林寺院群の一
320	里田G遺跡	散布地	不詳	
321	遊泉寺・ケボタA遺跡	散布地	古代（平安）～中世	
322	遊泉寺・ケボタB遺跡	散布地	古代（平安）～中世	社寺（隠明寺）又は城館伝承地
	空明寺古墳群	古墳	古代（平安）	須恵器窯（山海東窯）
323	空明寺古墳	古墳	古墳	古代墳墓の可能性も
	隠明寺跡	社寺跡	古代（平安）	中宮八院、梅鉢あるも伝承地の一
324	遊泉寺遺跡	散布地	縄文	
325	宮の前墓塚群	その他の墓	古代（平安）	墓塚4、3基調査、2号墓は鎌倉時代に経塚に利用された？
326	浦泉寺跡	社寺跡	古代（平安）	中宮八院、梅鉢あるも伝承地の一
327	常徳寺跡	社寺跡	中世（室町）	一向一揆・宇田屋敷の宮寺跡とも
328	鶴田城跡	城館跡	不詳	一向一揆・宇田屋敷の居城伝承地
329	鶴田横穴	不詳	不詳	地下式坑？
330	仏大寺弘法寺跡	社寺跡	中世	
331	仏大寺とうの前古墳	古墳	古墳	
332	仏生寺跡	社寺跡	中世	
333	仏生寺塚	経塚	中世	
334	ブッショウジヤマ古墳群	古墳	古墳	円墳2、木芯粘土室

No	名　　称	種　　別	時　　代	備　　考
335	中海Ⅱ遺跡 (伝)長覚寺跡	集落跡 社寺跡	古墳～中世 古代（平安）	中世八段、地名伝承のみ
336	中海Ⅰ遺跡	散布地	古代（平安）～中世	
337	中堀遺跡・岩淵遺跡 岩淵ヒ野遺跡	散布地 散布地	縄文 旧石器	
338	長覚寺中世墓跡	その他の墓	中世	
339	赤蟻谷1遺跡	散布地	縄文	
340	松の木谷横穴群	不詳	不詳	存在消滅が不明、5基数とされる
341	赤蟻谷天王ノ本谷横穴群	横穴墓	不詳	横穴9、地下式坑4
342	雅興寺跡	社寺跡	古代（平安）	中世八段
343	岩淵城跡	城館跡	中世	
344	小山城跡	城館跡	中世	
345	私ヶ原城跡	城館跡	中世	
346	仏御前墓跡・仏御前墓	その他の墓	古代（平安）	小松市指定史跡
347	北1遺跡	散布地	縄文	
348	北1中世墓跡	その他の墓	中世	
349	下北1横穴群	横穴墓	不詳	横穴3
350	宮倉城跡	城館跡	中世（室町）	
351	中ノ岡北城跡	城館跡	中世	
352	鵜山城跡	城館跡	中世	
353	椎の木山遺跡	散布地	縄文	
354	昌隆寺跡	社寺跡	不詳	中世八段
355	護国寺跡	社寺跡	古代（平安）	中世八段
356	松谷寺 松谷寺跡	社寺跡 社寺跡	古代（奈良） 不詳	8世紀瓦出土、郡寺古代法林寺院 中世八段
357	平野城跡	城館跡	中世（室町）	一向一揆・平野家高城伝承地
358	江指城跡（江指山砦跡）	城館跡	中世（室町）	
359	蓮花寺跡	社寺跡	不詳	中世八段
360	渡在谷遺跡	散布地	中世（室町）	一向一揆・平津只月渡字品城伝承地
361	渡在谷城跡 (伝)渡在谷松岡寺跡	城館跡 社寺跡	中世（室町） 中世（室町）	一向一揆・平津只月渡字品城伝承地
362	渡在谷横穴群	横穴墓	不詳	横穴13、地下式坑5
363	六郎遺跡	集落跡	縄文	
364	麻倉尾谷遺跡	散布地	縄文	
365	松岡寺跡	社寺跡	中世（室町）	
366	大石山横穴群	横穴墓	不詳	横穴3
367	こたら谷横穴	横穴墓	不詳	横穴1
368	六山横穴	横穴墓	不詳	横穴1
369	池城跡塚	墓塚	中世（室町）	
370	曽山横穴	横穴墓	不詳	横穴1
371	布橋遺跡	散布地	縄文	
372	寺ノ瀬遺跡	散布地	縄文	ほかに寺院跡の伝承あり
373	横谷下城跡	城館跡	不詳	
374	横谷下石山神社遺跡	横穴墓	中世	
375	和気廃石谷墨遺跡	生産遺跡	古代（平安）	土師器破片、能美古窯跡南都　後山谷支群
376	和気廃石谷2号窯跡	生産遺跡	古代（奈良末～平安）	須恵器窯、能美古窯跡南都　後山谷支群
377	和気下和気古窯跡	生産遺跡	古代（平安）	須恵器窯、能美古窯跡南都
378	和気辻狩窯跡	生産遺跡	近世	
379	和気辻1A遺跡	散布地	縄文	
380	和気辻之尾遺跡	城館跡	不詳	
381	和気中和気古窯跡	生産遺跡	不詳	須恵器窯、能美古窯跡南都　後山谷支群
382	唐谷城跡	城館跡	中世	
383	唐谷横穴群	横穴墓	不詳	
384	寺島古窯跡	生産遺跡	不詳	須恵器窯、能美古窯跡南都
385	寺島薬師堂古墳	古墳	古墳	
386	鍋谷社跡	社寺跡	不詳	
387	鍋谷中世墓跡	その他の墓	中世	
388	鍋谷横穴	横穴墓	不詳	
389	鍋谷城跡	城館跡	不詳	

参考文献

イ　石川県教育委員会 (1992)『石川県遺跡地図』

石川県教育委員会 (2006)『石川県中世城館跡調査報告書 Ⅲ (加賀 Ⅱ)』

石川県立埋蔵文化財センター (1986)『漆町遺跡 Ⅰ』, 石川県小松市

石川県立埋蔵文化財センター (1988)『漆町遺跡 Ⅱ』, 石川県小松市

石川県立埋蔵文化財センター (1988)『辰口西部遺跡群 Ⅰ』, 石川県能美市

石川県立埋蔵文化財センター (1988)『白江梯川遺跡 Ⅰ』, 石川県小松市

石川県立埋蔵文化財センター (1989)『漆町遺跡 Ⅲ』, 石川県小松市

石川県立埋蔵文化財センター (1989)『漆町遺跡 Ⅳ』, 石川県小松市

石川県立埋蔵文化財センター (1989)『白江梯川遺跡 Ⅱ』, 石川県小松市

石川県立埋蔵文化財センター (1989)『蓮代寺地区遺跡 Ⅰ』, 石川県小松市

石川県立埋蔵文化財センター (1990)『小松市高堂遺跡』

石川県立埋蔵文化財センター (1993)『能美丘陵東遺跡群 I 』, 石川県能美市
石川県立埋蔵文化財センター (1995)『石川県小松市荒木田遺跡
石川県立埋蔵文化財センター (1997)『能美丘陵東遺跡群 II』, 石川県能美市
石川県立埋蔵文化財センター (1998)『能美丘陵東遺跡群 III』, 石川県能美市
(財) 石川県埋蔵文化財センター (1999)『能美丘陵東遺跡群 IV』, 石川県能美市
(財) 石川県埋蔵文化財センター (1999)『能美丘陵東遺跡群 V』, 石川県能美市
(財) 石川県埋蔵文化財センター (1999)『辰口町上徳山谷山西谷窯跡』, 石川県能美市
(財) 石川県埋蔵文化財センター (2002)『加賀市柴山貝塚・柴山出村遺跡』
(財) 石川県埋蔵文化財センター (2006)『小松市矢田野遺跡群』
(社) 石川県埋蔵文化財保存協会 (1993)『小松市林遺跡』
(社) 石川県埋蔵文化財保存協会 (1998)『石川県小松市八幡遺跡 I』
石川考古学研究会 (1988)『石川県城館跡分布調査報告』

ウ 上野 與一 (1965) 考古篇『小松市史 』4 風土・民俗篇 , 小松市教育委員会 , 石川県

カ 軽海用水誌編纂委員会 (1996)『軽海用水誌』小松東部土地改良区 , p75-77. p201-221.. 石川県

コ 小松市教育委員会 (1988)『念仏林遺跡』, 石川県
小松市教育委員会 (1990)『湯上谷古窯跡』, 石川県
小松市教育委員会 (1990)『二ツ梨東山古窯跡・矢田野向山古窯跡』, 石川県
小松市教育委員会 (1992)『矢田野エジリ古墳』, 石川県
小松市教育委員会 (2000)『矢田借屋古墳群』, 石川県
小松市教育委員会 (2003)『八日市地方遺跡 I 』, 石川県
小松市教育委員会 (2004)『佐々木遺跡』, 石川県
小松市教育委員会 (2004)『八里向山遺跡群』, 石川県
小松市教育委員会 (2005)『小松市内遺跡発掘調査報告書 I 』二ツ梨豆岡向山窯跡 , 石川県
小松市教育委員会 (2006)『小松市内遺跡発掘調査報告書 II』矢田借屋古墳群 , 石川県
小松市教育委員会 (2006)『千代オオキダ遺跡』, 石川県
小松市教育委員会 (2006)『小野遺跡』, 石川県
小松市教育委員会 (2006)『額見町遺跡 I 』, 石川県
小松市教育委員会 (2007)『小松市内遺跡発掘調査報告書 III』薬師遺跡 , 石川県
小松市教育委員会 (2007)『額見町遺跡 II 』, 石川県
小松市教育委員会 (2008)『額見町遺跡 III 』, 石川県
小松市教育委員会 (2009)『額見町遺跡 IV』, 石川県
小松市教育委員会 (2010)『額見町遺跡 V』, 石川県
小松市教育委員会 (2011)『小松市内遺跡発掘調査報告書 VII 』矢崎宮の下遺跡 , 薬師遺跡 V 次 , 石川県
小松市教育委員会 (2014)『大川遺跡』, 石川県
小松市史編纂委員会 (2001)『新修小松市史 3』九谷焼と小松瓦 , 小松市 , 石川県
小松市史編纂委員会 (2002)『新修小松市史 4』国府と荘園 , 小松市 , 石川県

タ 辰口町教育委員会 (1982)『辰口町下開発茶臼山古墳群』, 石川県能美市
辰口町教育委員会 (1985)『辰口町湯屋古窯跡』, 石川県能美市
辰口町教育委員会 (2001)『辰口町湯屋古窯跡 III』, 石川県能美市
辰口町教育委員会 (2004)『下開発茶臼山古墳群 II 』, 石川県能美市
辰口町教育委員会 (2005)『和気後山谷窯跡群』, 石川県能美市

テ 寺井町教育委員会 (1997)『 加賀能美古墳群』, 石川県能美市

ヘ 日置 謙 (1923)『石川県能美郡誌』能美郡役所 , p366-375. p642. p823. p1268-1269. p1342-1343. , 石川県
日置 謙 (1925)『石川県江沼郡誌』江沼郡役所 , p679. , 石川県

ホ 北陸中世土器研究会 編 (1997)『中・近世の北陸』 桂書房 , p193-208.

第Ⅱ章　薬師遺跡発掘調査

第１節　調査の概要

１　既往の調査

薬師遺跡の所在する矢崎町ナ字地内は、平成 11 年度及び平成 14 年度の市道改良工事に係る発掘調査以降、未舗装だった道路が舗装され、上下水道等のインフラも整備されたことから、畑の宅地化が進んでいる。個人住宅建築を原因とする試掘調査や工事立会は、平成 15 年度以降、毎年１～数件ずつ実施されている。

発掘調査としては、平成 17 年度の第３次調査以降、今報告時点では、平成 30 年度の第 16 次調査まで、店舗を原因とする第４次調査を除いて 13 件が個人住宅（店舗併用１件含む）を原因としている。したがって、１件あたりの発掘調査は規模が小さく、僅かな成果を少しずつ積み重ねている状況である。本書では、第 12 次～第 14 次調査までを報告する。

薬師遺跡の発掘調査で最も特筆されるのが７世紀のＬ形カマドの発見で、第３次調査と第５次調査で１軒ずつ確認されている。県調査分も含めて、矢田野遺跡、薬師遺跡、矢崎宮の下遺跡と、飛鳥時代における渡来系集落の分布が月津台地全体に渡ると考えられるようになった。

薬師遺跡は、谷を挟んで南北に集落域を持つ遺跡であり、発掘調査は主に北側の領域で実施されている。ここには昔時「薬師山」（矢崎町側では「高山」）という山があり、今江町と矢崎町の境界をなしていたが、この山を取り巻くように広がる集落域だったと考えられる。

第４図　薬師遺跡　調査地の位置

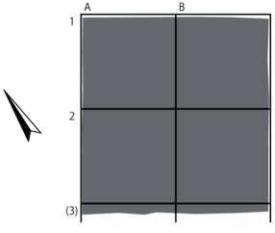
南側の領域については情報が少ない。山の中心が JR 北陸本線や国道 305 号線より西に位置する傾斜地だったためか、試掘調査では土採取等の削平の後埋め立てられた痕跡がしばしば見られ、埋蔵文化財が確認されないことも多い。

2　調査に至る経緯

第 12 次調査　平成 27 年 6 月 7 日付けで協議があった矢崎町地内の個人住宅建築の件は、薬師遺跡の範囲内にあるため、同年同月 27 日に試掘調査を実施し、埋蔵文化財の存在を確認した。建築の設計は、地盤を表層改良した上で布基礎となっていたため、発掘調査による記録保存を講じることとした。文化財保護法 93 条に基づく手続きを経て、発掘届等の事前に必要な手続きを経て、平成 27 年 7 月 21 日に着手した。当該発掘調査は国庫補助対象事業として実施した。

第 13 次調査　平成 27 年 6 月 30 日付けで協議があった店舗併用住宅建築の件は、薬師遺跡の範囲内にあるため、同年 7 月 7 日に試掘調査を実施し、埋蔵文化財の存在を確認した。台地から低地へ下る坂道に面しており、試掘調査の時点で地山が一部露出している状態だったため、発掘調査による記録保存を講じることとした。文化財保護法 93 条に基づく手続きを経て、発掘届等の事前に必要な手続きを経て、平成 27 年 10 月 19 日に着手した。なお、建築される店舗は個人経営のため、当該発掘調査は国庫補助対象事業として実施した。

第 14 次調査　平成 28 年 12 月 13 日付けで協議があった矢崎町地内の個人住宅建築の件は、薬師遺跡の範囲内にあり、かつ前年の第 13 次調査の隣だったため、試掘調査を省略して発掘調査による記録保存を講じることとした。文化財保護法 93 条に基づく手続きを経て、発掘届等の事前に必要な手続きを経て、平成 29 年 1 月 10 日に着手した。当該発掘調査は国庫補助対象事業として実施した。



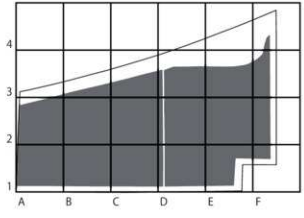
第 5 図　薬師遺跡　12 次 グリッド配点図

3　調査の方法

土地境界のプレートまたは杭に原点（A-1）を設定して、土地境界を軸にして 5m 間隔のグリッドとした。

遺構の実測は、既存の 4 級基準点を与点として行った。グリッドは計算で得られた座標に基づいて図上にプロットしている。

平面図及びセクションポイントは光波測距儀で得られた座標をすべて野帳に記録し、必要に応じて図化した。原図の縮尺は、平面図は 50 分の 1 と 20 分の 1 の併用、断面図と立面図は 20 分の 1 である。



第 6 図　薬師遺跡　13・14 次 グリッド配点図

4　調査の経過

第 12 次調査　7 月 21 日に重機による表土除去で着手したが、ここから 1 週間は調査担当者の研修及び埋蔵文化財センターのイベント等のために器材搬入と

乾燥防止の養生をしただけで、発掘作業の開始は翌週からとなった。包含層掘削は 1 週間かけて行ない、この間、7 月 30 日には中学生の職場体験を受け入れた。倒木や攪乱の痕跡で遺構が見づらい状況ではあったが、掘立柱建物、カマドと思われる焼土をそれぞれ 1 箇所で見出した。発掘作業は、主にカマドの周辺での竪穴プランの検出にリソースを割くことになるが、結果としては、削平のためか、竪穴もカマドもプランとしては確認されず、辛うじて柱穴らしいピットを見出したのみだった。

発掘作業を全景撮影まで完了したのは 8 月 7 日、平面図・立面図を翌週 1 週間かけて作成し、8 月 17 日に器材の片付け、翌 18 日に重機で埋め戻して、調査を完了した。

第 13 次調査　試掘調査の結果で、地山が露出していないところでも 5cm 程度で地山に達することが分かっていたので、着手日とした 10 月 19 日より作業員を投入して、除草を兼ねた手掘り掘削を始めた。この作業の過程で、隣地擁壁に 20cm ほど土に覆われていた痕跡が残っており、近隣住民よれば、数年前まで藪に覆われていて、伐採後に表土を鋤き取り、もともとあった大きなゴミ穴を埋めたとのことだった。

地山を検出する作業は 10 月 27 日までかかったが、調査の範囲にこのゴミ穴はなく、地山の削平は、数年前の表土鋤き取りではなく、「もともとあった大きなゴミ穴」を掘ったときの工事と考えられた。また、焼土を 2 箇所近接して検出したが、少なくとも 1 箇所は、貼床と思われる層が焼けていた。竪穴プランは残っていなかったが、柱穴は確認できたので、これを竪穴建物跡として記録する作業を 11 月 6 日まで続け、この日に全景撮影までを完了した。

季節柄、悪天候の日が多くなり、平面図作成は 11 月 12 日から 20 日までうち 3 日間の作業で作成し、調査で出積みにした土を重機で均す作業を 20 日に行ない、調査を完了した。

第 14 次調査　1 月 10 日に重機を手配して表土除去を行ない、併行して作業員の手掘り掘削も開始した。初日の時点で、前年に聞いた「もともとあった大きなゴミ穴」を埋めた跡が調査区の大部分を占めていることが分かり、土砂搬出も必要かと思われた予定を変更して「ゴミ穴跡」を土置場に利用することにした。調査は、わずかにピット数基を検出しただけで、翌日には作業を完了した。

撮影用フィルムや測量機器の手配が間に合わず、天候不順もあいまって、写真撮影および平面図作成ができたのは 1 月 18 日、翌日までに全ての作業を完了した。

第 2 節　遺構と遺物

1　遺構（第 7 ～ 11 図）

(1)　竪穴建物

2 軒検出したが、どちらも竪穴プランは確認できず、焼面と柱穴からの推定である。

SI14　焼面の縁に隆起が認められ、焚口で強く焼けたカマド壁の残存と考えられる。この周辺に SK23 ～ 28 の 6 基の土坑が分布し、これらは竪穴建物廃絶後の掘削と思われ、一部に焼面直上出土のものと接合関係がある土師器煮炊具片が出土した。これ以外の土師器片も含めてこのエリアに分布が集中している。また、包含層調査中にも広範囲に被熱した粘土片の散布が認められた。P14 と 15 を柱穴と推定したが、この検討に基づけば、かまどは建物内で右に偏る位置になる。また、貼床は検出されず、竪穴自体の掘削痕の検討も、遺構検出面を徒らに荒らすとの考えから行なっていない。

SI15　焼面が大小 1 箇所ずつ見出された。このうち小さい方は粘土片が突き固められた状況が観察され、貼床と考えられる。柱穴は明確であり、焼面の位置関係からも竪穴建物と断定してよいと考えられるが、竪穴プランは攪乱の影響で見出されなかった。焼面の大きい方は壁の立ち上がりと考えうる隆起や支柱穴のような痕跡は検出されなかったが、カマドと考えてよいと思われる。

⑵　**掘立柱建物**

SB13　調査区内では梁行１間、桁行２間の柱穴の配列が見出された。平面図上ではかなり歪なプランだが、周辺には他のピットや根痕などの土壌攪乱も少なく、作業員も含めて誰もが指摘するほど明確に検出された。柱間寸法は、梁行で約 2m、桁行で約 3m である。調査区の隅で検出されたこともあり、総柱建物として調査区外に拡大する可能性もなくはないが、現在までのところ検討対象となりうる位置に発掘調査の機会はない。

⑶　**土坑**

SK23 ～ 28　過去に土坑の掘方を「漏斗状（＝井戸）」「筒状」「鉢状」に分類して報告したことがあるが（小松市教委 2014）、これに従えば、SK24 は筒状、他の５基は鉢状の掘方であり、すべて略円形～楕円形プランである。出土遺物に SI14 のカマド周辺遺物と思われる土師器煮炊具が多く混入することはすでに述べた通りである。

SK29　削平の影響で底面を辛うじて検出した。隣地住宅の擁壁工事で約半分が破壊された状況ではあるが、プラン検出までの作業で遺物の集中する状況があった。プランは楕円形で、覆土には焼土を含む。掘方は鉢形に分類できると思われる。

２　**遺物（第 12 ～ 14 図）**

出土遺物は大半が SI14、SI15、SK29 に関わるものであり、これら遺構年代の検討材料となるものと言えるが、実測図化の対象は限定的であり、土坑で唯一出土遺物の多かった SK29 はほぼ土器片を回収したのみとなった。第２表には、参考として一部に遺物の年代を表記しているが、編年的に検討されたものではなく、一部の特徴をつまんでの推定に過ぎないことはご容赦願いたい。

⑴　**古墳時代の遺物（9 ～ 10・31）**

9 ～ 10 は、須恵器の坏Ｈの蓋と身である。

31 は、土師器の釜（煮炊具の「甕」はすべて「釜」と呼びかえている）である。

⑵　**古代の遺物（1 ～ 8・11 ～ 30・32 ～ 36）**

1 ～ 2・11 ～ 24・30 は須恵器の食膳具であり、1 ～ 2・11 ～ 12 は坏 A、16 ～ 18 は坏 B の蓋と身、20 ～ 23 は盤 A、24 は皿（無台）、30 は高坏である。

25 ～ 29 は須恵器の貯蔵具であり、25・26 は甕の胴上部、27 は壺の口頸部、28 は長頸瓶の口頸部、29 は双耳瓶の胴下部である。

4 ～ 8 は、SI14 カマド周辺の土師器煮炊具（長胴釜・甑）である。出土位置は第 9 図に示した。

3 は土師器の埦（有台）であり、32 ～ 34 は長胴釜、35 は鍋である。

⑶　**その他（37 ～ 41）**

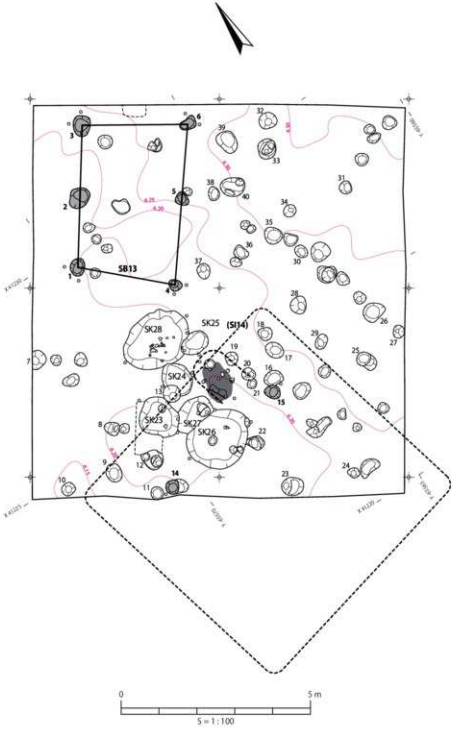
鍛冶関連遺物として 50 点を整理したが、これらのうちボルトの頭部と思われる鉄製品 1 点、酸化鉄の凝結と思われる自然物 1 点を除く 48 点が鍛冶滓である。実測図化した 5 点は椀形を呈するものして抽出したが、40 は分類上椀形としていない。

第３節　まとめ

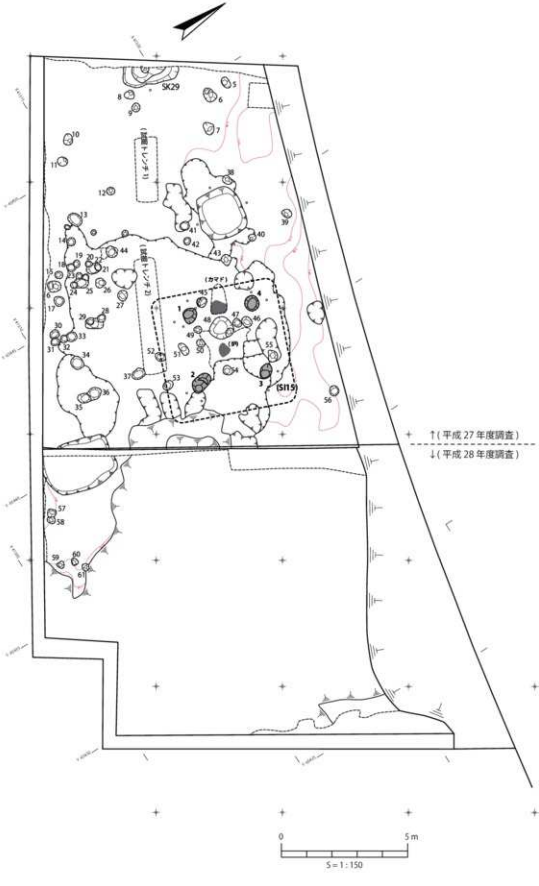
出土遺物の検討は十分といえないが、今報告に係る出土遺物は概ね 8 世紀代と 9 世紀後半～ 10 世紀前半の 2 時期に区分できる。SI14・SI15 は前者の時期の竪穴建物と考えられる。

参考文献

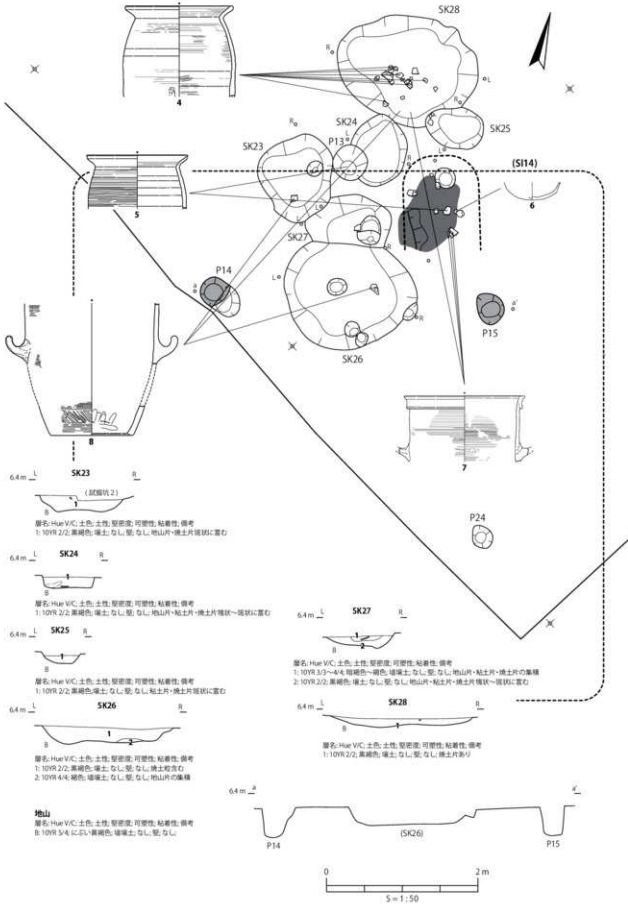
コ　小松市教育委員会 (1991)『戸津古窯跡群 I』, 石川県
小松市教育委員会 (1993)『戸津古窯跡群 III』, 石川県
小松市教育委員会 (1993)『二ツ梨豆岡向山古窯跡』, 石川県
小松市教育委員会 (2000)『矢田借屋古墳群』, 石川県
小松市教育委員会 (2003)『薬師遺跡』, 石川県
小松市教育委員会 (2005)『小松市内遺跡発掘調査報告書 I』二ツ梨豆岡向山窯跡, 石川県
小松市教育委員会 (2006)『小松市内遺跡発掘調査報告書 II』矢田借屋古墳群, 石川県
小松市教育委員会 (2007)『小松市内遺跡発掘調査報告書 III』薬師遺跡, 石川県
小松市教育委員会 (2008)『小松市内遺跡発掘調査報告書 IV』薬師遺跡, 石川県
小松市教育委員会 (2011)『小松市内遺跡発掘調査報告書 VII』薬師遺跡, 石川県
小松市教育委員会 (2012)『小松市内遺跡発掘調査報告書 VIII』薬師遺跡, 石川県
小松市教育委員会 (2014)『小松市内遺跡発掘調査報告書 X』矢田借屋古墳群 島遺跡 古竹 C 遺跡, 石川県
小松市教育委員会 (2015)『小松市内遺跡発掘調査報告書 XI』薬師遺跡, 石川県
小松市埋蔵文化財センター (2017)『小松市内遺跡発掘調査報告書 XII』二ツ梨豆岡向山窯跡群, 石川県
小松市埋蔵文化財センター (2019)『小松市内遺跡発掘調査報告書 XIV』二ツ梨豆岡向山窯跡群, 石川県
タ　田嶋 明人 (1986)「漆町遺跡出土土器の編年的考察」『漆町遺跡』石川県立埋蔵文化財センター
田嶋 明人 (1988)「古代編年軸の設定」『シンポジウム北陸古代土器研究の現状と課題 (資料編)』北陸古代土器研究会・石川考古学研究会, 石川県
モ　望月 精司 (2007)「三湖台地集落群の古代前半期土器様相」『額見町遺跡 II』, 石川県小松市
望月 精司 (2008)「南加賀地域の平安後期土器群に関する編年的考察」『額見町遺跡 III』, 石川県小松市



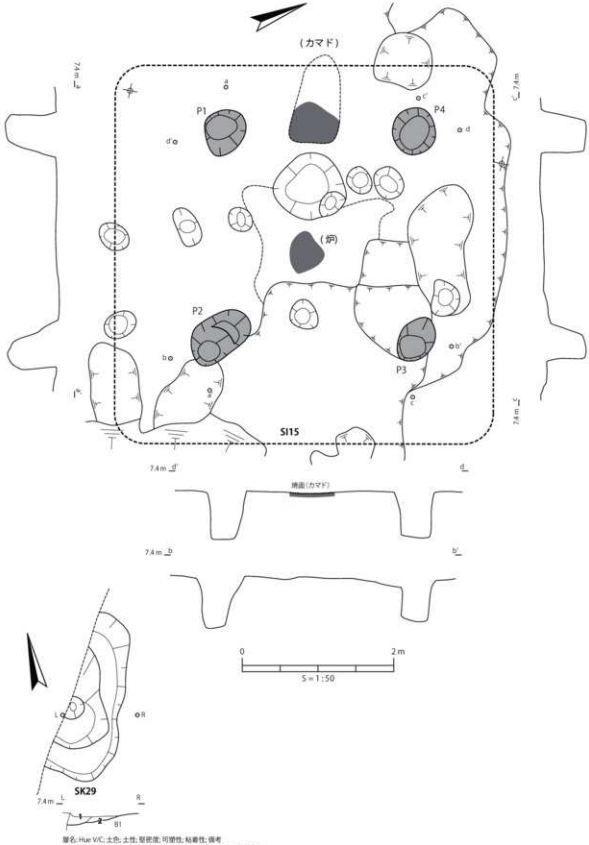
第 7 図　薬師遺跡　12 次 平面図



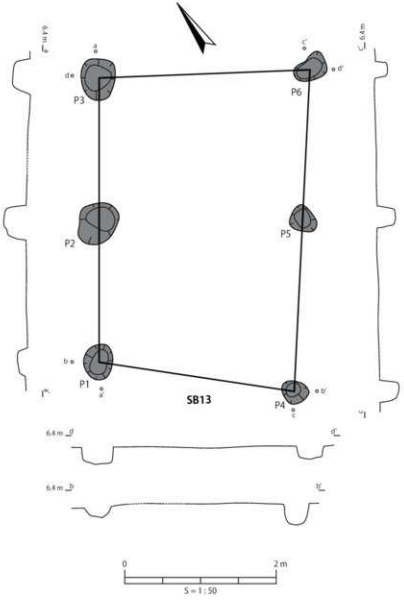
第8図　薬師遺跡　13・14次 平面図



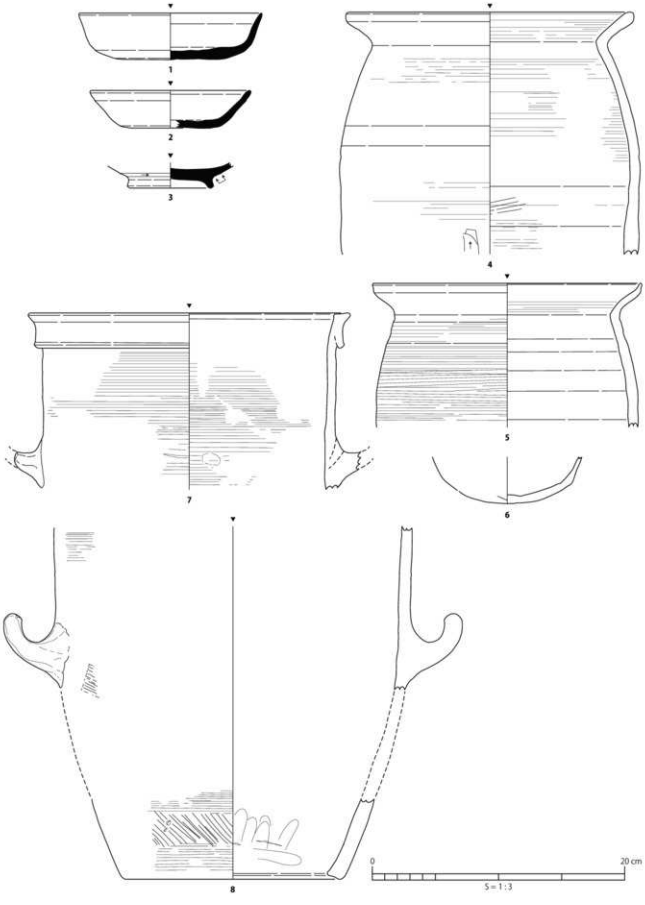
第９図　薬師遺跡　遺構実測図１



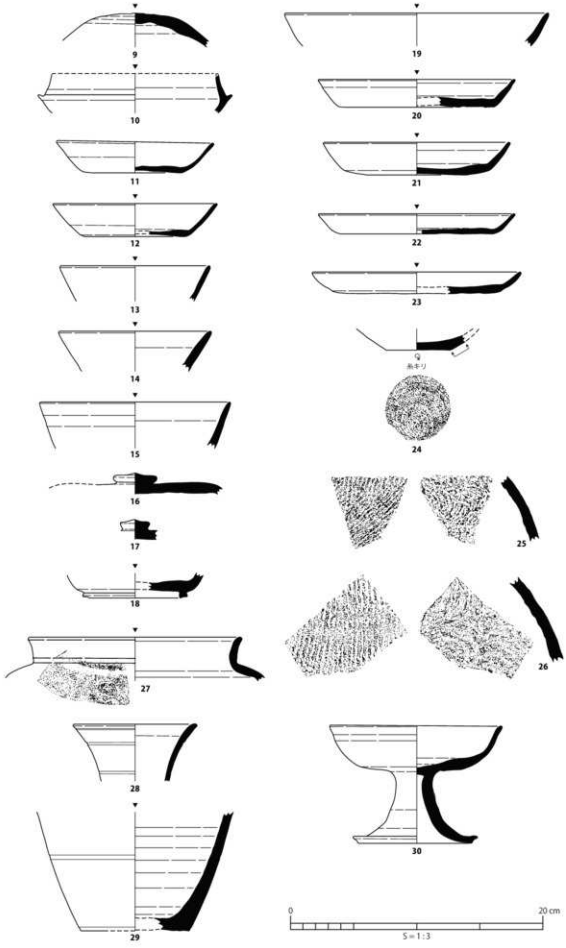
第 10 図　薬師遺跡　遺構実測図 2



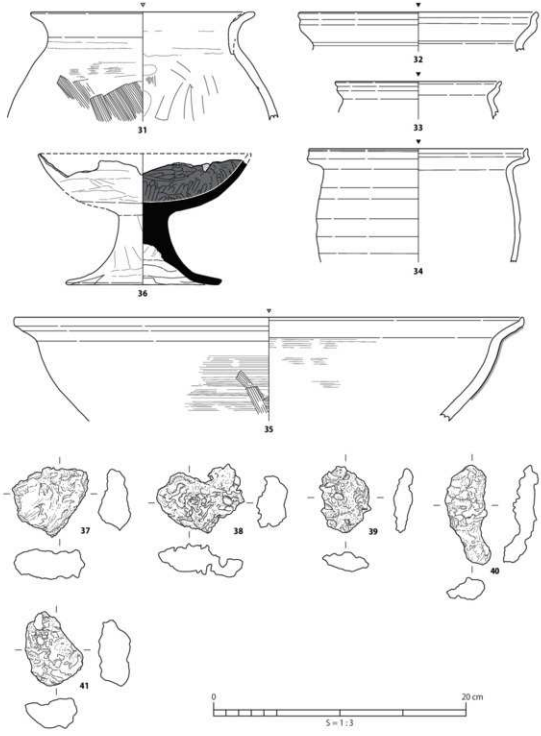
第 11 図　薬師遺跡　遺構実測図 3



第 12 図　薬師遺跡　出土遺物実測図 1



第 13 図　薬師遺跡　出土遺物実測図 2



第 14 図　薬師遺跡　出土遺物実測図 3

第２表　薬師遺跡　出土遺物属性表

No	実測	出土位置	分類	器形	寸法／残率	表層色調	胎土色調	備考
1	く26	12th 表土	須恵器	坏	口:14cm/0.278,底:9cm/0.417,高:3.7cm	7.5YR 6/4	N 7/0	
2	く27	12th B-1 包含層	須恵器	坏	口:13cm/0.194,底:8cm/0.194,高:3.0cm	2.5Y 7/1	2.5GY 6/1	
3	く28	12th B-2 包含層	須恵器	碗	台:7cm/0.222	2.5Y 5/1	N 6/0	10c 前半
4	た35	12th A-2 包含層 12th SI14 12th SK25 12th SK28 #16 #19 #21 #22 #23 #25 #26 #31	土師器	釜	口:23cm/0.722,頸:19cm/0.722	10YR 8/3	7.5YR 7/6	8c 前半
5	く29	12th SI14 カマド #6 12th A-2 P13	土師器	釜	口:21cm/0.167,頸:18cm/0.167	5YR 7/6	5YR 7/6	
6	く30	12th SI14 カマド #5	土師器	釜		7.5YR 8/6	7.5YR 8/6	
7	た33	12th SI14 カマド #1 #2 #3 12th SK28	土師器	甑	口:25cm/0.167	10YR 5/4	5YR 6/6	8c 前半
8	た34	12th SK23 #28 12th SK26 #30 12th SK28	土師器	甑		5YR 7/7	10YR 7/3	8c 前半
9	た38	13th A-2	須恵器	坏(蓋)		2.5Y 6/1	N 6/0	6c 前半
10	た39	13th A-2	須恵器	坏(身)	受:15cm/0.083	2.5Y 7/1	2.5Y 6/1	6c 前半
11	た44	13th C-2 (SI15) カクラン	須恵器	坏	口:12cm/0.389,底:8cm/1.000,高:2.5cm	2.5Y 7/1	2.5Y 6/1	
12	た45	13th C-2 (SI15) カクラン	須恵器	坏	口:13cm/0.083,底:8cm/0.278,高:2.6cm	2.5Y 8/2	10YR 8/2	
13	く33	14th D-1 カクラン	須恵器	坏	口:12cm/0.097	2.5Y 7/1	2.5Y 7/1	
14	く34	14th D-1 カクラン	須恵器	坏	口:12cm/0.167	2.5Y 7/2	2.5Y 7/1	
15	く35	14th D-1 カクラン	須恵器	坏	口:15cm/0.083	N 6/0	2.5Y 7/1	
16	た47	13th C-2 (SI15) カクラン	須恵器	坏(蓋)		N 7/0	2.5Y 6/2	
17	く37	14th D-1 カクラン	須恵器	坏(蓋)		2.5Y 6/1	7.5YR 5/1	
18	く32	14th D-1 カクラン	須恵器	坏(身)	台:8cm/0.167	2.5Y 6/1	2.5Y 6/1	
19	く36	14th D-1 カクラン	須恵器	甕	口:21cm/0.083	2.5Y 6/1	2.5Y 7/1	
20	た42	13th C-1	須恵器	甕	口:16cm/0.111,底:12cm/0.167,高:2.2cm	2.5Y 7/1	N 6/0	
21	た43	13th C-1	須恵器	甕	口:15cm/0.083,底:11cm/0.347,高:2.6cm	2.5Y 6/1	2.5Y 6/1	
22	た46	13th C-2 (SI15) カクラン	須恵器	甕	口:16cm/0.306,底:12cm/0.306,高:1.6cm	2.5Y 7/1	N 6/0	
23	く31	14th D-1 カクラン	須恵器	甕	口:16cm/0.056,底:13cm/0.139,高:1.7cm	2.5Y 7/1	2.5Y 6/1	
24	た41	13th B-2	須恵器	鉢	底:5cm/0.889	N 6/0	N 5/0	10c 前半
25	く38	14th D-1 カクラン	須恵器	甕		N 6/0	7.5YR 6/1	
26	く39	14th D-1 カクラン	須恵器	甕		N 5/0	N 6/0	
27	た48	13th C-2 (SI15) カクラン	須恵器	甕	口:17cm/0.083,頸:16cm/0.097	2.5Y 5/1	7.5Y 5/2	8c 後半
28	た40	13th A-2	須恵器	長頸瓶	口:10cm/0.236	2.5Y 6/1	2.5Y 5/1	
29	た49	13th C-2 (SI15) カクラン	須恵器	双口瓶	底:9cm/0.306	2.5Y 6/1	10YR 6/1	8c 後半
30	た36	13th A-2	須恵器	高坏	口:14cm/0.750,脚:10cm/0.194,高:9.4cm	2.5Y 4/1	N 4/0	7c 後半～8c 前半
31	た52	13th C-2(SI15) カクラン	土師器	釜	口:17cm/0.111,頸:15cm/0.306	5YR 7/6	5YR 7/6	古墳中～後期
32	く40	14th D-1 カクラン	土師器	釜	口:19cm/0.083,頸:17cm/0.111	10YR 7/3	10YR 7/2	9c 後半
33	く41	14th D-1 カクラン	土師器	釜	口:13cm/0.097,頸:12cm/0.111	7.5YR 5/3	7.5YR 6/2	9c 後半
34	た51	13th C-1 P36	土師器	釜	口:17cm/0.125,頸:16cm/0.194	5YR 7/4	7.5YR 8/2	10c 前半
35	た50	13th B-2	土師器	鍋	口:40cm/0.083,頸:37cm/0.056	5YR 6/4	7.5YR 8/2	7c 後半～8c 前半
36	た37	13th SK29	土師器	高坏	口:17cm/0.083,脚:12cm/0.722,高:10.4cm	10YR 6/3,(内黒)	10YR 6/2	7c 後半～8c 前半
37	鍛冶 13	12th B-1 包含層	鍛冶滓	椀形	長:6.4cm,幅:5.0cm,厚:2.3cm,重:96.20g			磁着:5,メタル:H
38	鍛冶 14	12th B-1 包含層	鍛冶滓	椀形	長:7.0cm,幅:5.4cm,厚:2.0cm,重:70.90g			磁着:2,メタル:-
39	鍛冶 01	12th A-1 包含層	鍛冶滓	椀形	長:3.7cm,幅:5.3cm,厚:1.6cm,重:40.38g			磁着:5,メタル:H
40	鍛冶 12	12th B-1 包含層	鍛冶滓		長:3.0cm,幅:8.3cm,厚:2.3cm,重:43.49g			磁着:7,メタル:H
41	鍛冶 50	14th F-1 カクラン	鍛冶滓	椀形	長:4.1cm,幅:6.0cm,厚:2.3cm,重:60.82g			磁着:6,メタル:H
	鍛冶 02	12th A-1 包含層	鍛冶滓		長:4.6cm,幅:2.6cm,厚:1.5cm,重:17.94g			磁着:1,メタル:H
	鍛冶 03	12th A-1 包含層	鉄製品	ボルト？	長:2.9cm,重:2.6cm,厚:1.9cm,重:21.13g			磁着:5,メタル:特L 除外(現代遺物)
	鍛冶 04	12th A-1 包含層	鍛冶滓		長:2.8cm,幅:1.9cm,厚:1.4cm,重:12.19g			磁着:4,メタル:H
	鍛冶 05	12th A-1 包含層	鍛冶滓		長:2.4cm,幅:2.0cm,厚:1.8cm,重:10.35g			磁着:2,メタル:-
	鍛冶 06	12th B-1 包含層	鍛冶滓		長:2.0cm,幅:1.4cm,厚:0.6cm,重:1.50g			磁着:1,メタル:-
	鍛冶 07	12th B-1 包含層	鍛冶滓		長:3.1cm,幅:2.5cm,厚:1.0cm,重:13.88g			磁着:3,メタル:H
	鍛冶 08	12th B-1 包含層	鍛冶滓		長:4.3cm,幅:2.0cm,厚:1.5cm,重:22.77g			磁着:3,メタル:-
	鍛冶 09	12th B-1 包含層	鍛冶滓		長:2.3cm,幅:1.8cm,厚:0.9cm,重:4.61g			磁着:2,メタル:-
	鍛冶 10	12th B-1 包含層	鍛冶滓		長:2.1cm,幅:1.8cm,厚:1.3cm,重:7.36g			磁着:1,メタル:-
	鍛冶 11	12th B-1 包含層	鍛冶滓		長:3.1cm,幅:2.6cm,厚:1.4cm,重:13.43g			磁着:3,メタル:H
	鍛冶 15	12th B-2 包含層	鍛冶滓		長:3.9cm,幅:2.7cm,厚:1.5cm,重:17.07g			磁着:7,メタル:H
	鍛冶 16	12th B-2 包含層	鍛冶滓		長:3.8cm,幅:2.9cm,厚:2.0cm,重:19.29g			磁着:4,メタル:-
	鍛冶 17	12th B-2 包含層	鍛冶滓		長:2.0cm,幅:1.9cm,厚:1.5cm,重:6.16g			磁着:0,メタル:-
	鍛冶 18	12th B-2 包含層	鍛冶滓		長:3.9cm,幅:2.7cm,厚:1.5cm,重:17.07g			磁着:3,メタル:H
	鍛冶 19	12th B-2 包含層	鍛冶滓		長:2.1cm,幅:1.6cm,厚:1.3cm,重:4.94g			磁着:5,メタル:H
	鍛冶 20	12th B-2 包含層	鍛冶滓		長:5.5cm,幅:2.7cm,厚:2.0cm,重:23.73g			磁着:5,メタル:H
	鍛冶 21	12th B-2 包含層	鍛冶滓		長:2.3cm,幅:1.6cm,厚:1.3cm,重:3.07g			磁着:2,メタル:-
	鍛冶 22	12th B-2 包含層	鍛冶滓		長:1.8cm,幅:1.5cm,厚:1.3cm,重:2.02g			磁着:0,メタル:-
	鍛冶 23	12th A-2 包含層	鍛冶滓		長:4.2cm,幅:3.0cm,厚:1.6cm,重:25.28g			磁着:6,メタル:H
	鍛冶 24	12th SK26	鍛冶滓		長:1.9cm,幅:1.2cm,厚:1.0cm,重:1.38g			磁着:2,メタル:-
	鍛冶 25	12th SK26	鍛冶滓		長:2.3cm,幅:2.0cm,厚:1.0cm,重:6.31g			磁着:2,メタル:-
	鍛冶 26	12th B-2 P23	鍛冶滓		長:2.6cm,幅:2.2cm,厚:1.7cm,重:6.26g			磁着:3,メタル:H
	鍛冶 27	12th B-2 P24	鍛冶滓		長:2.1cm,幅:1.6cm,厚:1.4cm,重:2.60g			磁着:1,メタル:-
	鍛冶 28	12th B-2 P25	鍛冶滓		長:4.4cm,幅:3.3cm,厚:2.3cm,重:31.68g			磁着:4,メタル:H
	鍛冶 29	12th B-2 P25	鍛冶滓		長:4.0cm,幅:2.8cm,厚:2.5cm,重:20.55g			磁着:4,メタル:H
	鍛冶 30	12th B-2 P27	鍛冶滓		長:3.0cm,幅:1.3cm,厚:1.0cm,重:6.29g			磁着:3,メタル:-
	鍛冶 31	13th B-1	鍛冶滓		長:4.5cm,幅:2.6cm,厚:2.6cm,重:26.83g			磁着:6,メタル:H
	鍛冶 32	13th B-2	鍛冶滓		長:3.2cm,幅:1.4cm,厚:1.4cm,重:9.68g			磁着:4,メタル:H
	鍛冶 33	13th B-2	鍛冶滓		長:4.7cm,幅:3.7cm,厚:2.0cm,重:47.12g			磁着:5,メタル:H

No	実測	出土位置	分類	器形	寸法 / 残率	表層色調	胎土色調	備考
	鍛冶 34	13th B-2	鍛冶滓		長 :5.1cm, 幅 :4.8cm, 厚 :2.1cm, 重 :68.73g			磁着 :5, メタル :M
	鍛冶 35	13th B-2	鍛冶滓		長 :3.7cm, 幅 :2.2cm, 厚 :1.7cm, 重 :10.14g			磁着 :3, メタル :-
	鍛冶 36	13th B-2	鍛冶滓		長 :4.0cm, 幅 :3.7cm, 厚 :1.8cm, 重 :24.03g			磁着 :5, メタル :H
	鍛冶 37	13th B-2	鍛冶滓		長 :3.7cm, 幅 :2.1cm, 厚 :2.2cm, 重 :19.03g			磁着 :5, メタル :L
	鍛冶 38	13th B-2	鍛冶滓		長 :2.4cm, 幅 :1.7cm, 厚 :1.2cm, 重 :7.30g			磁着 :2, メタル :H
	鍛冶 39	13th C-1	鍛冶滓		長 3.0cm, 幅 :2.0cm, 厚 :1.9cm, 重 :14.99g			磁着 :3, メタル :H
	鍛冶 40	13th C-1	鍛冶滓		長 :3.8cm, 幅 :2.8cm, 厚 :2.2cm, 重 :29.70g			磁着 :4, メタル :H
	鍛冶 41	13th C-2 (S15) カクラン	鍛冶滓		長 :3.2cm, 幅 :2.2cm, 厚 :2.7cm, 重 :17.30g			磁着 :5, メタル :H
	鍛冶 42	13th C-2 (S15) カクラン	鍛冶滓		長 :3.9cm, 幅 :3.0cm, 厚 :2.0cm, 重 :33.83g			磁着 :6, メタル :L
	鍛冶 43	13th C-2 (S15) カクラン	鍛冶滓		長 :2.8cm, 幅 :1.7cm, 厚 :1.5cm, 重 :10.56g			磁着 :5, メタル :H
	鍛冶 44	13th C-2 P48	酸化鉄の結晶		長 :2.5cm, 幅 :2.3cm, 厚 :0.3cm, 重 :1.99g			除外（自然物）
	鍛冶 45	13th C-2 P48	鍛冶滓		長 :3.5cm, 幅 :2.4cm, 厚 :1.4cm, 重 :11.32g			磁着 :3, メタル :-
	鍛冶 46	13th D-1 カクラン	鍛冶滓		長 :2.5cm, 幅 :1.7cm, 厚 :1.5cm, 重 :6.24g			磁着 :2, メタル :-
	鍛冶 47	13th D-1 カクラン	鍛冶滓		長 :3.0cm, 幅 :2.0cm, 厚 :2.2cm, 重 :17.56g			磁着 :4, メタル :H
	鍛冶 48	13th D-1 カクラン	鍛冶滓		長 :4.3cm, 幅 :3.1cm, 厚 :2.7cm, 重 :41.95g			磁着 :6, メタル :H
	鍛冶 49	13th D-1 カクラン	鍛冶滓		長 :2.7cm, 幅 :2.1cm, 厚 :1.7cm, 重 :8.83g			磁着 :1, メタル :-

第 III 章　島遺跡発掘調査

第 1 節　調査の概要

1　既往の調査

島遺跡は、従前より台地上の畑地に須恵器・土師器の散布が知られ、土取跡の崖面に竪穴住居跡の断面が露出するなど、埋蔵文化財包蔵地であることは周知されていた。

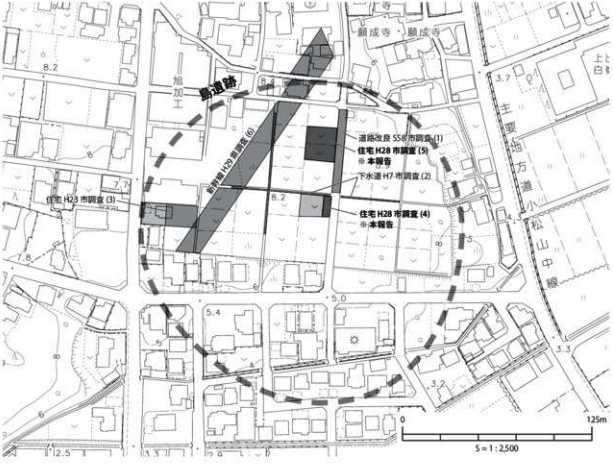
最初の発掘調査は、昭和 58 年度に小松市建設部土木課（当時）の市道改良工事に係り小松市教育委員会 (以下、市教委) が実施した（第 1 次調査)。その後、平成 5 年には木場潟汚水幹線計画によって市道および町道に下水道が敷設されることとなり、小松市建設部下水道課（当時）と市教委の協議の結果、平成 7 年度に町道の施工範囲について発掘調査を実施した（第 2 次調査)。

これらの調査の結果、島遺跡は弥生時代～中世にわたる複合遺跡であり、遺物の出土量からは 8 世紀後半～ 9 世紀前半が主体であり、時期は特定できないが製陶・製鉄と関わりを持つ性格の集落遺跡と考えられることが報告されている。

第 3 次調査は、平成 23 年度に個人住宅建築を原因として実施された。溝 2 条と須恵器・土師器を少量出土したのみだったが、集落の周縁領域の一部と考えられた。

2　調査に至る経緯

平成 28 年 3 月から 4 月にかけて、島遺跡の範囲内で 2 件の個人住宅建築計画が明らかになり、埋蔵文化財センターと協議がもたれた。試掘調査の結果、2 件とも埋蔵文化財が確認され、その保護



第 15 図　島遺跡　調査地の位置

措置が必要な旨の回答を行なった。

1件目は、平成28年3月7日付けで協議、平成28年3月17日に試掘調査を実施した。住宅の建築計画自体は地盤改良を伴わず、ベタ基礎施工により埋蔵文化財への影響はないと判断されたが、台地を下りる坂道に面する位置にあるため、外構工事が埋蔵文化財に及ぶことから、この範囲54m²を発掘調査による記録保存の対象とした。文化財保護法第93条に基づく発掘届等の事前に必要な手続きを経て、これを第4次調査として、平成28年5月16日に着手した。当該発掘調査は国庫補助対象事業として実施した。

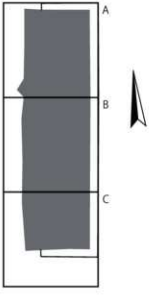
2件目は、第4次調査の準備に取り掛かりつつある平成28年4月7日付けで協議、平成28年5月2日に試掘調査を実施した。こちらの方は、設計GLからベタ基礎が埋蔵文化財の深さに及び、基礎の範囲159m²を発掘調査による記録保存の対象とした。文化財保護法第93条に基づく発掘届等の事前に必要な手続きを経て、これを第5次調査として、第4次調査の作業完了日となる平成28年5月24日に着手した。当該発掘調査は国庫補助対象事業として実施した。

3 調査の方法

土地境界のプレートまたは杭に原点（A-1）を設定して、土地境界を軸にして5m間隔のグリッドとした。

遺構の実測は、着手前に4級基準点を委託業務により設置し、これを与点として行った。グリッドは計算で得られた座標に基づいて図上にプロットしている。

平面図及びセクションポイントは光波測距儀で得られた座標をすべて野帳に記録し、必要に応じて図化した。原図の縮尺は、平面図・断面図ともに20分の1である。



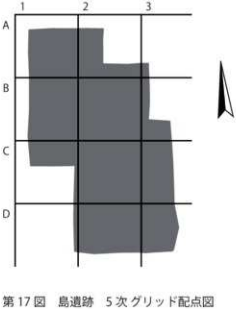
第16図　島遺跡　4次グリッド配点図

4 調査の経過

第4次調査　5月16日に重機を手配して表土除去、翌日より作業員を入れて包含層の掘削を開始した。調査範囲が狭いこともあり、包含層は2日で掘削を完了し、目立つ遺構がないこともこの時点で確認された。5月23日には完掘、翌日にかけて平面図を作成し、調査を完了した。

第5次調査　5月17日の時点で発掘調査による記録保存で対応することが決まり、第4次調査が完了する5月24日に重機による表土除去を実施したが、この時点で遺物が集中的に出土する箇所があった。翌日からの包含層掘削は、遺物集中と遺構との関係に留意したが、結果、廃棄土坑等など関連する遺構は確認されず、包含層自体が二次的包含層であり、整地等で遺跡の一部が削平された際に出土した土器を埋めたものだろうと推量された。17号溝や5号土坑など目立つ遺構はあったが、出土遺物の大部分が土器集中に含まれたものであり、それ以外では疎らな包含状況だった。

6月3日に断面図まで含めて作業が完了し、6日に全景撮影、12日までに平面図作成・埋め戻しまで含めて、調査を完了した。



第17図　島遺跡　5次グリッド配点図

第２節　遺構と遺物

１　遺構（第 18 ～ 20 図）

⑴　溝

SD17　区画溝の一部と考えられる。覆土は片側から流れ込んだ状況が読み取れ、方角で言えば北側から埋め戻されたと考えられる。

SD18　非常に細い区画溝の一部と考えられる。

SK08　底面が辛うじて検出された溝だが、この延長上に関連する凹みは検出されず、調査中は土坑の範疇で遺構番号を付した。南側の SK09 に接続し、掘方はここで明らかに途切れている。SK09 に水を引き込む溝の可能性が考えられるが、水の流れたような痕跡は見出されなかった。

⑵　土坑

SK05　長方形プランで箱型に掘り凹められている。覆土はよくほぐれており、攪乱坑の可能性があるが、現代遺物の混入等は認められなかった。

SK06　楕円形プランで掘方は鉢状である。SD17 との切り合い関係は不明だが、埋め戻された痕跡は認められず、単独の土坑である。

SK07　表土除去段階から帯状に分布する遺物の集中が見られた直下で検出された。略円形プランで掘方は鉢状である。遺物の分布は、耕地整理等の整地によるものと考えられ、当該土坑との関連も一度は考えたが、出土レベルはほぼ耕作層直下であり、工事中に出土した遺物を無造作に埋めた可能性は否めない。

SK09　円形プランで掘方は筒状である。SK08 との接続部分に傾斜が設けられており、これを含めると、上端のプランは卵形を呈する。

２　遺物（第 21 ～ 24 図）

⑴　弥生時代末～古墳時代前期の遺物（1 ～ 2・12 ～ 15）

12 は庄内期のものと思われる甕形土器（釜）である。出土土器のうち古墳時代より遡ると考えられるのは、これ 1 点のみである。

1 は高坏の坏部、2 は高坏の脚部、13 ～ 14 は器台の脚部であり、脚部はすべて裾がハの字に広がる。

15 は鉢形の小型土器である。

⑵　古代の遺物（3 ～ 11・16 ～ 57）

3 ～ 8・16 ～ 41 は須恵器の食膳具であり、16 ～ 17 は坏 H、18 ～ 19 は坏 G かそれに近い坏 A、3・20 ～ 25 は坏 A、4 ～ 5・26 ～ 41 は坏 B の蓋と身、6 は盤 A、7 ～ 8 は盤 B の身である。

42 は土師質の坏 B であり、内外面及び底面（すなわち全面）に赤彩が施されている。

9 は須恵器の調理具であり、鉢である。

10 ～ 11・43 ～ 49 は須恵器の貯蔵具であり、43 ～ 44 は甕、10・45 は壷の蓋、11 は壷、46 ～ 47 は長頸瓶、48 ～ 49 は横瓶である。

50 ～ 54 は土師器の煮炊具であり、50 ～ 51 は鍋、52 ～ 53 は長胴釜である。54 は小型の釜か。

55 ～ 57 は土師器の食膳具であり、55 は高坏、56 ～ 57 は有台埦である。56 は内黒処理されている。

⑶　その他（58 ～ 62）

58 ～ 59 は碧玉質岩の玉作関連遺物である。59 は施溝分割された形割品であり、弥生時代中期のものである。

60 ～ 62 は鍛冶関連遺物である。20 点を整理したが、すべて鍛冶滓であり、椀形を呈する 3 点を実測図化した。

第3節　まとめ

今調査出土遺物の大半は第５次調査区の土器集中のものだが、土木工事等で元の地形の起伏が均される過程でまとめて廃棄されたと思われる。また、遺構出土の遺物はそれぞれの時期を検討する材料にできる出土状況に恵まれなかったものの、全体としてみれば７世紀代～８世紀代の範疇に収まる。既往の調査では、８世紀後半～９世紀前半主体（小松市教委 1998）、８世紀後半（小松市教委 2014）と報告されているから、これらとの比較の限りでは相対的に古い時期の資料といえる。

今調査から今報告までの間に、北陸新幹線建設に係る発掘調査が実施され、報告書も刊行された（石川県教委ほか 2019）。島遺跡の発掘調査としては最大規模であり、今調査を含めた市調査の所見に加えて中世の遺構と遺物も明らかになり、調査成果としては大きく進展した。

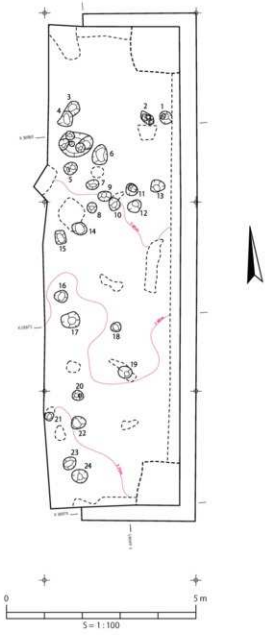
参考文献

イ　石川県教育委員会・(公財) 石川県埋蔵文化財センター (2019)『小松市島遺跡』
(公財) 石川県埋蔵文化財センター (2018)「島遺跡」『石川県埋蔵文化財情報』39

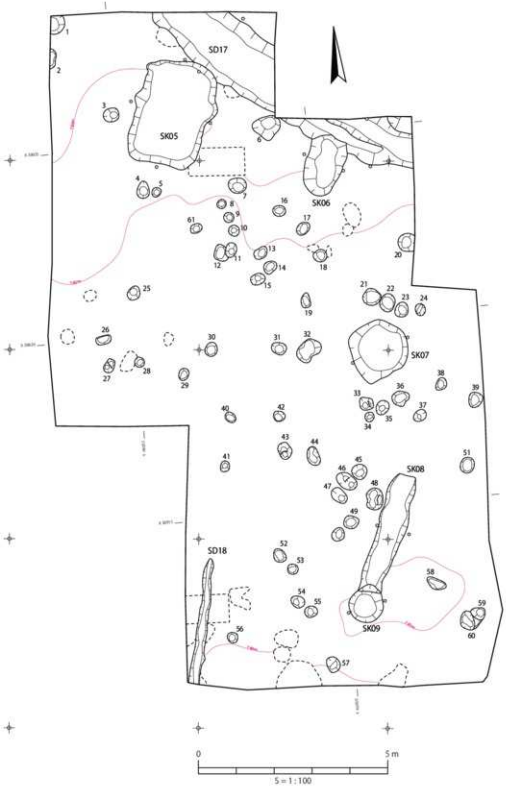
コ　小松市教育委員会 (1991)『戸津古窯跡群 I』, 石川県
小松市教育委員会 (1993)『戸津古窯跡群 III』, 石川県
小松市教育委員会 (1993)『二ツ梨豆岡向山古窯跡』, 石川県
小松市教育委員会 (1998)『島遺跡』, 石川県
小松市教育委員会 (2000)『矢田借屋古墳群』, 石川県
小松市教育委員会 (2005)『小松市内遺跡発掘調査報告書 I』二ツ梨豆岡向山窯跡, 石川県
小松市教育委員会 (2006)『小松市内遺跡発掘調査報告書 II』矢田借屋古墳群, 石川県
小松市教育委員会 (2015)『小松市内遺跡発掘調査報告書 X』矢田借屋古墳群　島遺跡　古竹 C 遺跡, 石川県
小松市埋蔵文化財センター (2017)『小松市内遺跡発掘調査報告書 XII』二ツ梨豆岡向山窯跡群, 石川県
小松市埋蔵文化財センター (2019)『小松市内遺跡発掘調査報告書 XIV』二ツ梨豆岡向山窯跡群, 石川県

タ　田嶋 明人 (1986)「漆町遺跡出土土器の編年的考察」『漆町遺跡』石川県立埋蔵文化財センター
田嶋 明人 (1988)「古代編年軸の設定」『シンポジウム北陸古代土器研究の現状と課題 (資料編)』北陸古代土器研究会・石川考古学研究会, 石川県

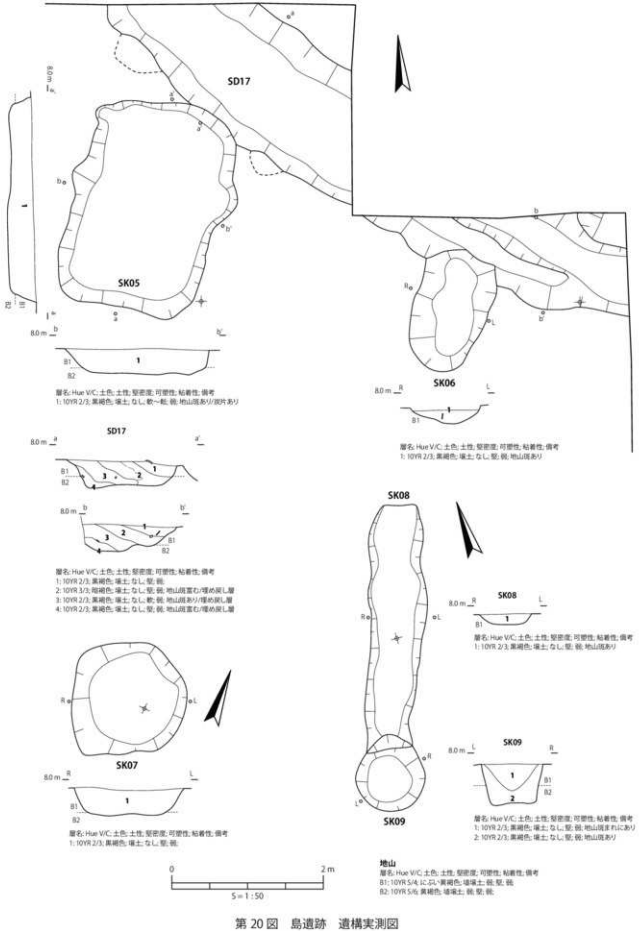
モ　望月 精司 (2007)「三湖台地集落群の古代前半期土器様相」『額見町遺跡 II』, 石川県小松市
望月 精司 (2008)「南加賀地域の平安後期土器群に関する編年的考察」『額見町遺跡 III』, 石川県小松市



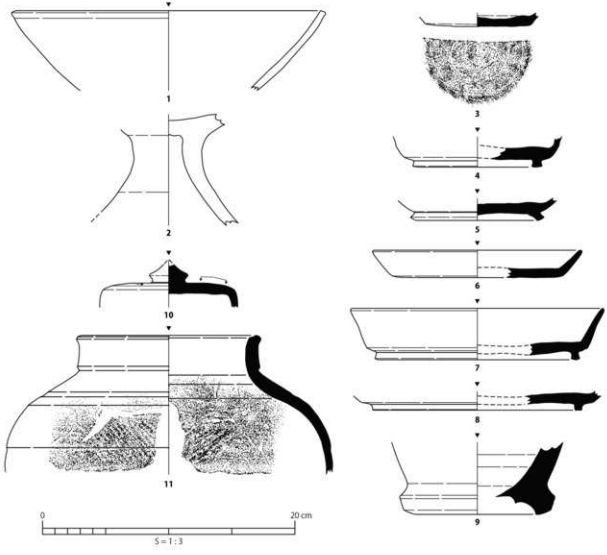
第 18 図　島遺跡　4 次 平面図



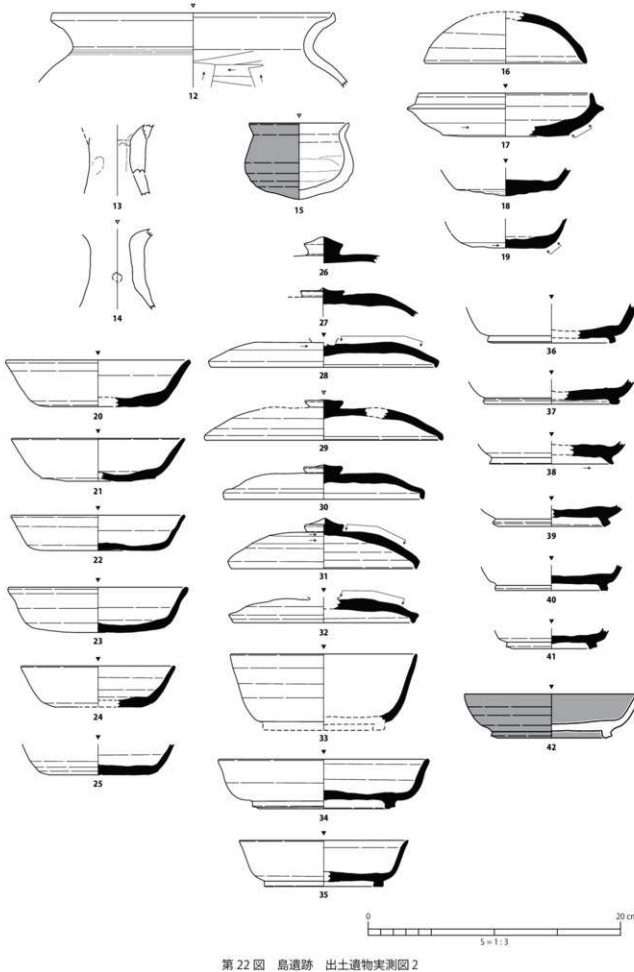
第19図　島遺跡　5次平面図



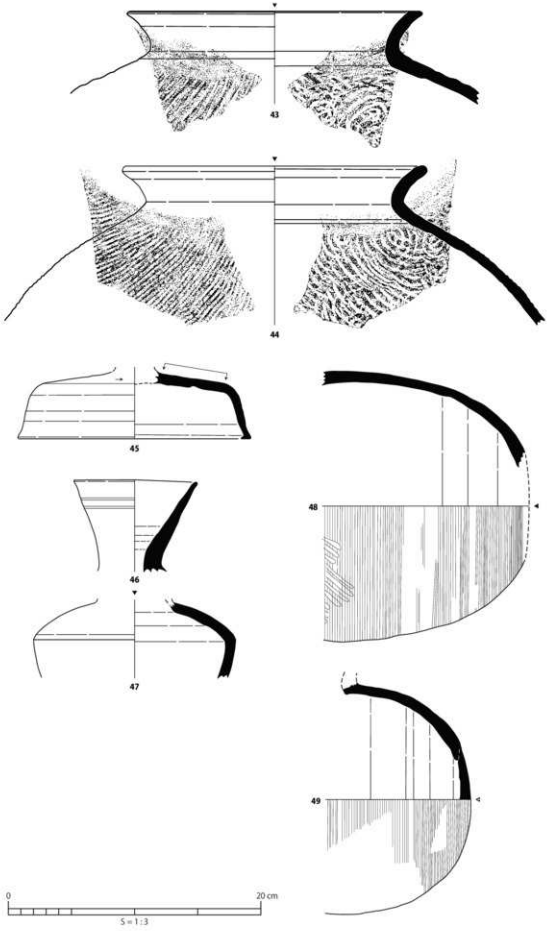
第 20 図　島遺跡　遺構実測図



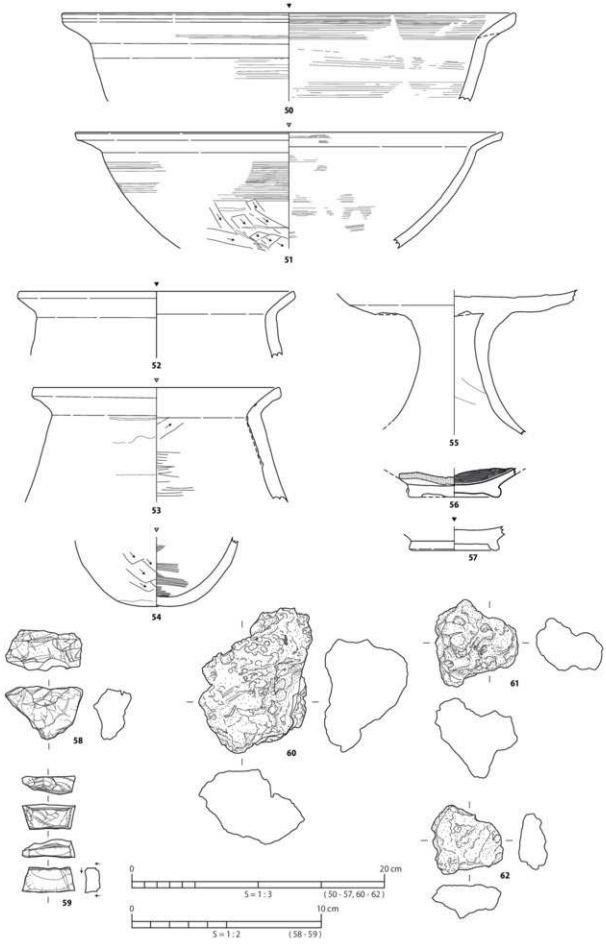
第 21 図　島遺跡　出土遺物実測図 1



第 22 図　島遺跡　出土遺物実測図 2



第 23 図　島遺跡　出土遺物実測図 3



第 24 図　島遺跡　出土遺物実測図 4

第３表　島遺跡　出土遺物属性表

No	実測	出土位置	分類	器形	寸法／残率	表層色調	胎土色調	備考
1	く20	4th B 包含層	土師器	高坏(坏)	口:24cm/0.167	10YR 8/3	10YR 8/3	古墳前期
2	く21	4th B 包含層	土師器	高坏(脚)		7.5YR 7/4	7.5YR 7/4	古墳前期
3	く01	4th C 包含層	須恵器	坏	底:9cm/0.556	2.5Y 7/1	2.5Y 6/1	
4	く02	4th A 包含層	須恵器	坏(身)	什:10cm/0.250	2.5Y 7/1	2.5Y 7/1	
5	く03	4th B 包含層	須恵器	坏(身)	什:10cm/0.250	2.5Y 7/1	2.5Y 7/1	
6	く04	4th A 包含層	須恵器	盤	口:16cm/0.167, 底:13cm/0.167, 高:2.2cm	2.5Y 7/1	2.5Y 6/1	
7	く06	4th A 包含層	須恵器	盤(身)	口:20cm/0.167, 什:16cm/0.167, 高:4.1cm	2.5Y 7/1	2.5Y 8/1	
8	く05	4th A 包含層	須恵器	盤(身)	什:17cm/0.111	2.5Y 6/1	2.5Y 6/1	
9	く07	4th A 包含層	須恵器	蓋(蓋)		2.5Y 7/1	10YR 7/2	
10	く09	4th A 包含層	須恵器	蓋	口:14cm/0.194, 頭:14cm/0.278	2.5Y 6/1	2.5Y 6/1	
11	く08	4th A 包含層	須恵器	鉢	底:12cm/0.583	2.5Y 7/2	N 7/0	
12	く19	5th SK06	弥生土器	壺形	口:22cm/0.083, 頭:19cm/0.083	5YR 7/4	2.5Y 5/1	弥生末・古墳初
13	た18	5th C-3 土器集中	土師器	器什(脚)		5YR 7/6	7.5YR 7/4	古墳前期
14	く23	5th C-3 土器集中	土師器	器什(脚)		5YR 7/6	5YR 7/6	古墳前期
15	た19	5th C-2 C-3 土器集中 P37	須恵器	小甕	口:8cm/0.278, 頭:7cm/0.278, 高:6.1cm	2.5YR 6/6(赤彩)	10YR 8/3	古墳前期
16	く13	5th SK05	須恵器	坏(蓋)	口:13cm/0.583	10YR 7/1	10YR 7/2	7c 前半
17	く14	5th SK06	須恵器	坏(身)	口:14cm/0.250, 什:10cm/-, 高:3.4cm	2.5Y 7/1	2.5Y 6/1	7c 前半
18	く17	5th SK05	須恵器	坏	底:7cm/0.333	N 6/0	2.5Y 7/1	7c
19	た16	5th C-3 土器集中	須恵器	坏	底:6cm/1.000	N 5/0	10YR 7/2	7c
20	く15	5th SK05	須恵器	坏	口:15cm/0.194, 底:10cm/0.444, 高:3.7cm	N 6/0	N 6/0	
21	く16	5th SK05	須恵器	坏	口:14cm/0.167, 底:9cm/0.333, 高:3.4cm	2.5Y 7/1	10YR 6/2	
22	た07	5th C-2 土器集中	須恵器	坏	口:14cm/0.139, 底:10cm/0.583, 高:2.8cm	N 5/0	2.5Y 5/1	
23	た08	5th C-2 土器集中	須恵器	坏	口:14cm/0.278, 底:10cm/0.583, 高:3.6cm	10YR 8/2	7.5YR 8/3	
24	た31	5th C-3 土器集中	須恵器	坏	口:12cm/0.278, 底:6cm/0.333, 高:3.3cm	2.5Y 7/2	2.5Y7/3	
25	た24	5th C-3 土器集中	須恵器	坏	底:8cm/0.472	2.5Y 6/1	2.5Y 6/1	
26	く12	5th SD17 Ⅲ	須恵器	坏(蓋)		10YR 5/1	7.5YR 7/3	
27	た09	5th C-3 土器集中	須恵器	坏(蓋)		2.5Y 7/1	2.5Y 7/1	
28	た05	5th C-2 土器集中	須恵器	坏(蓋)	口:18cm/0.333	N 5/0	7.5Y 6/2	
29	た25	5th C-3 土器集中	須恵器	坏(蓋)	口:19cm/0.083	N 5/0	N 5/0	7c 後半～8c 前半
30	た11	5th C-3 土器集中	須恵器	坏(蓋)	口:16cm/0.167, 高:2.7cm	N 5/0	N 5/0	7c 後半～8c 前半
31	た14	5th C-3 土器集中	須恵器	坏(蓋)	口:15cm/0.306, 高:4.0cm	N 6/0	10YR 7/2	7c 後半～8c 前半
32	た10	5th C-3 土器集中	須恵器	坏(蓋)	口:14cm/0.444	2.5Y 7/1	2.5Y 7/1	7c 後半～8c 前半
33	た32	5th C-3 土器集中	須恵器	坏(身)	口:15cm/0.306	N 6/0	N 4/0	
34	た13	5th C-2 土器集中	須恵器	坏(身)	口:16cm/0.278, 什:10cm/0.194, 高:3.9cm	2.5GY 6/1	2.5GY 5/1	
35	た15	5th C-3 土器集中	須恵器	坏(身)	口:13cm/0.028, 什:9cm/0.500, 高:3.7cm	N 4/0	N 6/0	
36	た03	5th C-2 土器集中	須恵器	坏(身)	什:10cm/0.361	10YR 6/1	10YR 6/2	
37	た01	5th C-2 土器集中	須恵器	坏(身)	什:1cm/0.194	2.5Y 6/1	2.5Y 6/1	
38	く10	5th SD17 Ⅲ	須恵器	坏(身)	什:10cm/0.111	2.5Y 6/1	N 5/0	
39	た02	5th C-2 土器集中	須恵器	坏(身)	什:9cm/0.333	N 5/0	2.5Y 6/1	
40	た04	5th C-2 土器集中	須恵器	坏(身)	什:9cm/0.333	2.5Y 7/2	7.5Y 7/4	
41	く11	5th SD17 Ⅱ	須恵器	坏(身)	什:7cm/0.333	10YR 6/1	N 5/0	
42	く18	5th SK05	土師器	坏(身)	口:14cm/-, 什:10cm/0.472, 高:3.5cm	10R 6/8(赤彩)	7.5YR 7/4	
43	た21	5th C-3 土器集中	須恵器	甕	口:23cm/0.139, 頭:20cm/0.111	2.5Y 6/1	7.5YR 6/2	8c 前半
44	た22	5th C-2 土器集中	須恵器	甕	口:24cm/0.194, 頭:20cm/0.194	2.5Y 6/1	10YR 7/3	8c 前半
45	た06	5th C-2 土器集中	須恵器	蓋(蓋)	口:18cm/0.194	10YR 6/1	10YR 7/2	
46	た17	5th B-2 土器集中	須恵器	長頸瓶	口:10cm/0.917, 頭:5cm/1.000	N 6/0	10YR 6/2	
47	た23	5th C-2 C-3 土器集中	須恵器	長頸瓶	脚:16cm/0.333	2.5Y 7/1	2.5Y 6/1	
48	た26	5th C-2 土器集中	須恵器	横瓶		N 4/0	N 6/0	
49	た27	5th C-2 土器集中	須恵器	横瓶		N 4/0	N 6/0	
50	た28	5th C-2 土器集中	土師器	鍋	口:36cm/0.194, 頭:32cm/0.194	7.5YR 8/4	10YR 8/3	8c 後半
51	た20	5th C-3 土器集中 P23	土師器	鍋	口:34cm/0.042, 頭:30cm/0.042	7.5YR 8/4	10YR 8/3	8c 前半
52	た29	5th C-2 土器集中	土師器	釜	口:22cm/0.111, 頭:19cm/0.167	5YR 7/6	10YR 7/4	8c 後半
53	た17	5th C-3 土器集中	土師器	釜	口:19cm/0.167, 頭:16cm/0.194	7.5YR 7/6	10YR 8/4	8c 後半
54	く24	5th B-2 土器集中	土師器	小釜		5YR 7/6	10YR 8/4	7c 前半
55	く25	5th C-3 土器集中 SK08	土師器	高坏		7.5YR 8/6	7.5YR 8/6	
56	30	5th C-1 包含層	土師器	甕	什:7cm/1.000	7.5YR 8/6,(内黒)	10YR 8/4	11 c
57	く22	5th C-3 土器集中	土師器	甕	什:7cm/0.306	5YR 7/6	10YR 8/3	
58	29 01	5th A-2 包含層	製玉工程品	製玉工程品	長:2.8cm, 幅:4.1cm, 厚:2.1cm, 重:21.42g			碧玉質??
59	29 02	5th A-1 包含層	製玉工程品	形割	長:2.8cm, 幅:1.3cm, 厚:0.9cm, 重:4.45g			碧玉質??
60	勾群 12	5th C-3 土器集中	勾玉群	梅形	長:9.1cm, 幅:12.4cm, 厚:7.1cm, 重:690.8g			碧玉, メタル:M
61	勾群 10	5th C-2 土器集中	勾玉群	梅形	長:6.3cm, 幅:7.0cm, 厚:5.4cm, 重:217.66g			碧玉, メタル:H
62	勾群 20	5th SD17 Ⅲ	勾玉群	梅形	長:5.5cm, 幅:6.1cm, 厚:2.7cm, 重:64.23g			碧玉, メタル:H
	勾群 01	5th A-1 包含層	勾玉群		長:2.9cm, 幅:1.7cm, 厚:1.5cm, 重:10.14g			碧玉, メタル:-
	勾群 02	5th A-1 包含層	勾玉群		長:2.4cm, 幅:2.1cm, 厚:1.1cm, 重:7.93g			碧玉, メタル:-
	勾群 03	5th A-2 包含層	勾玉群		長:2.4cm, 幅:1.7cm, 厚:1.4cm, 重:9.16g			碧玉, メタル:H
	勾群 04	5th A-2 包含層	勾玉群		長:2.7cm, 幅:2.1cm, 厚:1.8cm, 重:11.13g			碧玉, メタル:H
	勾群 05	5th A-2 包含層	勾玉群		長:2.2cm, 幅:1.5cm, 厚:1.1cm, 重:4.42g			碧玉, メタル:H
	勾群 06	5th B-2 P21	勾玉群		長:5.0cm, 幅:3.7cm, 厚:2.7cm, 重:40.08g			碧玉, メタル:H
	勾群 07	5th B-3 土器集中	勾玉群		長:4.5cm, 幅:3.4cm, 厚:2.4cm, 重:30.72g			碧玉, メタル:H
	勾群 08	5th B-3 土器集中	勾玉群		長:2.9cm, 幅:2.5cm, 厚:2.4cm, 重:15.96g			碧玉, メタル:H
	勾群 09	5th C-2 土器集中	勾玉群		長:1.8cm, 幅:1.6cm, 厚:1.1cm, 重:6.86g			碧玉, メタル:-
	勾群 11	5th C-3 土器集中	勾玉群		長:4.3cm, 幅:2.8cm, 厚:1.9cm, 重:25.85g			碧玉, メタル:H
	勾群 13	5th SD17 Ⅰ	勾玉群		長:3.3cm, 幅:3.2cm, 厚:2.8cm, 重:13.30g			碧玉, メタル:-
	勾群 14	5th SD17 Ⅱ	勾玉群		長:4.3cm, 幅:3.9cm, 厚:2.8cm, 重:41.93g			碧玉, メタル:-
	勾群 15	5th SD17 Ⅱ	勾玉群		長:2.8cm, 幅:1.4cm, 厚:1.2cm, 重:7.23g			碧玉, メタル:-
	勾群 16	5th SD17 Ⅱ	勾玉群		長:2.9cm, 幅:1.9cm, 厚:1.7cm, 重:9.78g			碧玉, メタル:H
	勾群 17	5th SD17 Ⅱ	勾玉群		長:2.8cm, 幅:2.8cm, 厚:2.2cm, 重:15.74g			碧玉, メタル:H
	勾群 18	5th SD17 Ⅳ	勾玉群		長:4.2cm, 幅:2.7cm, 厚:2.0cm, 重:19.95g			碧玉, メタル:H
	勾群 19	5th SD17 Ⅲ	勾玉群		長:5.2cm, 幅:3.8cm, 厚:2.0cm, 重:36.91g			碧玉, メタル:H

第 IV 章　矢崎宮の下遺跡発掘調査

第 1 節　調査の概要

1　既往の調査

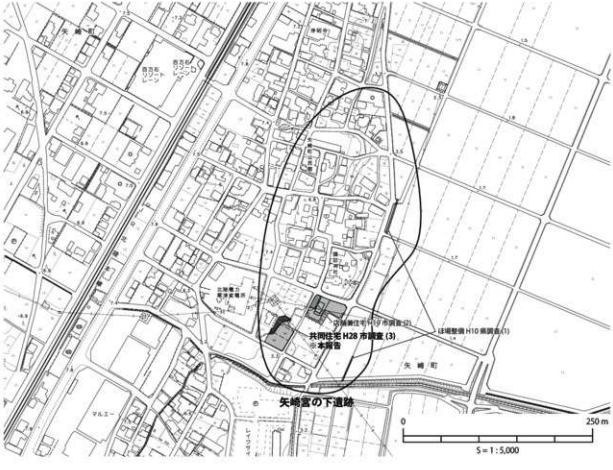
矢崎宮の下遺跡は、県営ほ場整備事業（木場潟西部地区矢崎工区）の計画を受けて平成 9 年 10 月の試掘調査によって新発見の遺跡として確認され、翌年に（財）石川県埋蔵文化財センターが発掘調査が行なわれた。この結果、縄文時代から中世にわたる遺構と遺物が出土したが、ほ場整備を原因とする関係上、台地を下りた砂地の一部を調査したのみであり、台地側に存在が推定される集落の縁辺部という位置づけにとどまった。また、この時は、見つかった遺構は中世以降のものと考えられており、推定されたのも中世の集落だった。

台地側に初めて調査が入ったのは平成 19 年であり、店舗併用住宅を原因として、小松市教育委員会が発掘調査を実施した。この時に、古墳時代中・後期～奈良時代にかけての遺物とともに、竪穴建物跡が 3 軒見つかり、台地上に集落跡が確認された初例となった。

2　調査に至る経緯

本書で報告するのは、発掘調査としては通算 3 次となる。

平成 29 年 1 月 31 日付けで協議があった矢崎町地内の共同住宅建築の件は、矢崎宮の下遺跡の範囲内にあるが、大部分が既に土採取による削平を受けていた。試掘調査は、対象地の一部に残存する台地上で 2 月 3 日に行ない、埋蔵文化財が存在することを確認した。



第 25 図　矢崎宮の下遺跡　調査地の位置

共同住宅は、土採取された側のレベルで敷地が造成される計画であったため、残存する台地部分163㎡を対象に発掘調査による記録保存を講じることとした。文化財保護法 93 条に基づく手続きを経て、発掘届等の事前に必要な手続きを経て、平成 29 年 2 月 27 日に着手した。なお、建築される共同住宅は個人所有のため、当該発掘調査は国庫補助対象事業として実施するところだったが、協議を受けた時点で補助事業として増額申請できる時期を過ぎていたため、市単独費用枠で対応した。

3 調査の方法

土地境界のプレートまたは杭に原点（A-1）を設定して、土地境界を軸にして 5m 間隔のグリッドとした。

遺構の実測は、既存の 4 級基準点を与点として行った。グリッドは計算で得られた座標に基づいて図上にプロットしている。

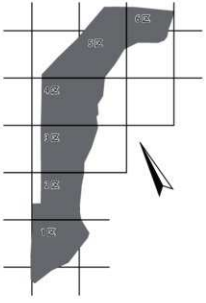
平面図及びセクションポイントは光波測距儀で得られた座標をすべて野帳に記録し、必要に応じて図化した。原図の縮尺は、平面図は 50 分の 1 と 20 分の 1 の併用、断面図と立面図は 20 分の 1 である。

4　調査の経過

重機による表土除去は、2 月 27 日から翌日にわたって行ない、この時点で、調査区のほぼ中央に縄文土器片が多く出土する箇所があった。3 月 1 日から作業員を投入して開始した発掘作業は、この縄文土器が集中した地点から南側にかけて開始したが、ここには遺構といえるプランが見出されなかったが、カマドか炉と思われる焼土は確認された。

調査区の北側に作業が及ぶと、3 月 3 日には古代のものと思われる竪穴建物のプランが見えてきて、カマドも残っており、しかも確認例としては初例となる L 型カマドだった。

発掘調査は、この竪穴建物跡と調査区南側の掘立柱建物跡 2 棟の記録作業を中心に行ない、3 月 16 日には全景撮影、この翌日から平面図作成を開始し、20 日に完了した。台地部分の造成は法面工事で掘削してしまうことから、埋め戻しは行なわず、調査完了の状態のまま現地を建築主に引き渡した。



第 26 図　矢崎宮の下遺跡　3 次グリッド配点図

第 2 節　遺構と遺物

1　遺構（第 27 ～ 30 図）

(1)　竪穴建物

SX01　表土除去の段階から縄文土器の集中があった位置に検出された円形プランの竪穴状遺構であり、中央に焼面がある。図上では竪穴建物として申し分ないが覆土はよくほぐれており、およそ竪穴建物のそれとは思われず、調査中は不明遺構とした。縄文土器の全てがここで出土したことから、耕地化されるまで竪穴の凹みが残り縄文土器が地表からも採集できる状態だったと推定される。

SI04　最初に検出されたのは L 形カマドの煙道部分で、ここを手掛かりに方形プランを半ば強引に検出した。焚口の前面に段差があり、貼床層を剥がす形で竪穴プランを検出した格好になると思わ

れるが、貼床を調査中に確認できたわけではない。SK03 は、調査中ずっと見えていたプランであり、SI04 に付属する土坑か。L 形カマドは煙道が短く、焚口が右に寄っている。なお、写真図版 5 では緩やかな法面が見えて拡張可能のように思われるかもしれないが、これは工事で設計されている法面の角度であり、調査範囲拡張は行なっていない。

⑵　掘立柱建物

SB01　梁行 1 間、桁行 2 間と推定される。P43 ～ 45 は遺構精査の早い段階で見出されており、大きめのプランで目立つピットであり、これに対応するピットが P46 ～ 47 しかないため、位置関係に幾らか疑問は残るがこれで 1 棟とした。柱間寸法は、梁行・桁行とも約 2m だが、平面図上での建物規模は、梁行で約 4.6m、桁行で約 5.5m である。

SB02　長辺約 3m、短辺約 2.3m の建物としたが、梁行の中間寸法が大きめの傾向から、東西に長い建物の可能性がある。

⑶　土坑

SK01　略円形プランで掘方は漏斗状である。上部が削平されているとしても、井戸とするには掘方が浅い。

SK02　楕円形プランで掘方は筒状である。SI04 のカマド脇の柱穴を検出していく過程でほぼ掘りつくしてしまい、土層の断面図はない。柱抜き取り穴か。

SK03　略円形プランで掘方が鉢状となる 2 基の土坑である。断面で切り合い関係は認められず、同時に掘られた複数の土坑か。SI04 に付属すると考えてよいかもしれないが、調査時にその認識はなく、また、掘り始めで出土遺物を分けなかったために、土坑としての遺構番号は一つである。

SK04・SK05　それぞれ 2 基ずつの土坑の複合であり、略円形プランで掘方は鉢状である。調査中の不手際で断面図がないが、検出段階から掘り下げ作業中も切り合い関係は全くわからず、掘削後に埋め戻した土坑群と考えられる。SK04 の土器は実測図の 20・23・24 であり、埋納状態での出土と考えられる。

SK06　写真のみの記録だが、25 ～ 27 の土器が埋納状態で出土した。1 基の土坑として調査し、今報告抄録もそれに従って数えるが、写真を見返す限りは 4 基程度のピットの複合の可能性があり、3 つの土器はそれぞれ 1 基のピットに対応するようだ。

2　遺物（第 31 ～ 34 図）

⑴　縄文時代後期の遺物（1 ～ 19）

出土状況はよいとは言えないが、すべて SX01 のプランが明らかになったエリアで出土したものであり、それなりに一括性があり、縄文時代後期中葉の酒見式の範疇に収まる資料である。

1 ～ 7 は有文の深鉢形及び鉢形土器であり、沈線で区切られた縄文帯（3・5）、縄文を欠くが弧線で区切る文様（7）、丸い波頭の波状口縁（1 ～ 2）など、酒見式には東北系・関東系・西日本系に類似する土器が知られるが、これらの中では関東系の加曽利 B2 式系統の土器が最も類似する。

8 ～ 12 は粗製の深鉢形土器である。8 ～ 9 は紡錘形に条線文を重ねる。10・12 は単節縄文の調整のみであり装飾は簡素である。また、サンプルは少ないが単節縄文の拠りは左右相半ばし、どちらかに偏ることはないようだ。

13 ～ 15 は注口土器と思われる。13 は波状の条線文、ほかは弧線で区切った磨消縄文または充填縄文で装飾されている。

その他、16 は無文のミニチュア土器、17 ～ 19 は有孔球状土製品である。17 ～ 18 は沈線と列点で装飾されている。

⑵　古墳時代中期～後期の遺物（20 ～ 28）

20 ～ 23 は甕形土器（釜）である。20・23 の口縁部はくの字状、21 ～ 22 は外反している。

24 ～ 27 は高坏の坏部である。24 のみ坏部の稜は貼り足しで強調された器形になっている。また、4 点全てが埋納状態での出土であり、共通して脚部を丸ごと欠損している。

28 は口縁部が小さく外反する椀である。

⑶　古代の遺物（29 ～ 41）

29 ～ 36 は須恵器の食膳具であり、29 は坏 A、30 ～ 36 は坏 B の蓋と身である。

37 ～ 38 は須恵器の貯蔵具であり、37 は壷の口頸部、38 は平瓶である。

39 ～ 40 は土師器の煮炊具である。39 は甑の口縁部と思われ、40 は小型の釜である。

41 は土師器の食膳具であり、高坏の脚部である。実測図上で表示できなかったが、坏部は内黒処理されている。

第 3 節　まとめ

今調査では、小松市において調査例の乏しい縄文時代遺跡の貴重な資料を報告できた。遺構も遺物も十分な検討は出来なかったが、資料としては今後の研究に寄与することはできるだろう。

古墳時代についても、細長い調査区で埋納土坑に掘り当たった。建物跡の発見はなかったが、集落の中で祭祀的な領域であったと推定される。

古代の遺物は少なかったが、先の第 2 次調査（第 1 次は県調査とする）で傍証的な推定のみだった L 形カマドを初めて確認できた。床面ギリギリでの検出であり、L 形カマド周辺の遺物は床面出土と見做してよいだろう。出土土器の編年的な検討が十分にできなかったのは今報告に係る他の 2 遺跡と同じだが、竪穴建物は、L 形カマドの特徴から 7 世紀後半と考えられる。また掘立柱建物は、少なくとも SB01 は主軸方位が SI04 とほぼ同じことを根拠に、同時期の建物と考えたい。

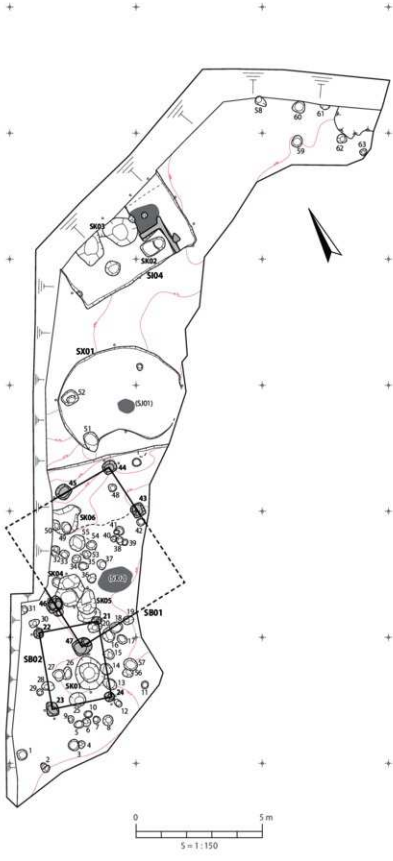
参考文献

イ　石川県立埋蔵文化財センター (1989)『金沢市米泉遺跡』
(財) 石川県埋蔵文化財センター (1999)「矢崎宮の下遺跡」『石川県埋蔵文化財情報』2
石川県教育委員会・(財) 石川県埋蔵文化財センター (2008)『小松市矢崎宮の下遺跡』

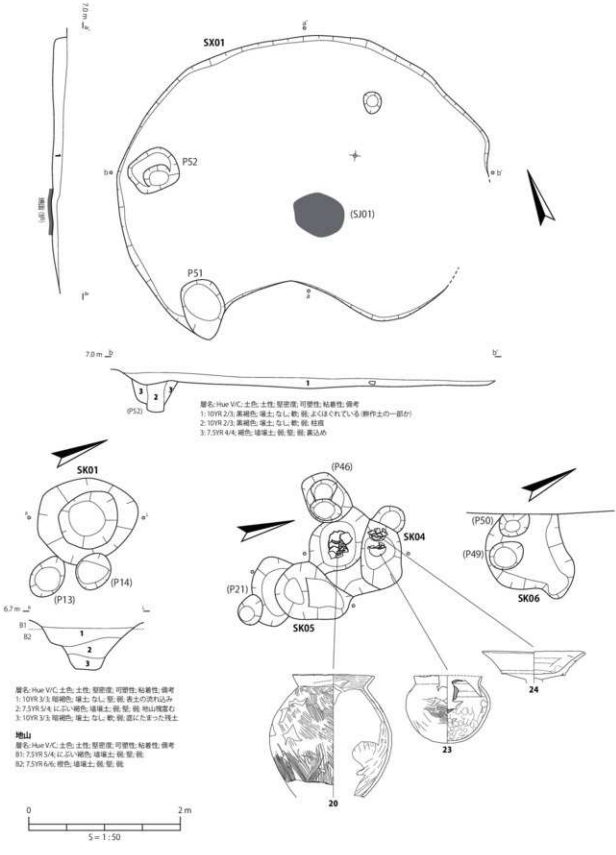
コ　小松市教育委員会 (1991)『戸津古窯跡群 I』, 石川県
小松市教育委員会 (1993)『戸津古窯跡群 III』, 石川県
小松市教育委員会 (1993)『二ツ梨豆岡向山古窯跡』, 石川県
小松市教育委員会 (2000)『矢田借屋古墳群』, 石川県
小松市教育委員会 (2002)『古竹遺跡』, 石川県
小松市教育委員会 (2005)『小松市内遺跡発掘調査報告書 I』二ツ梨豆岡向山窯跡 , 石川県
小松市教育委員会 (2006)『小松市内遺跡発掘調査報告書 II』矢田借屋古墳群 , 石川県
小松市教育委員会 (2007)『小松市内遺跡発掘調査報告書 III』薬師遺跡 , 石川県
小松市教育委員会 (2011)『小松市内遺跡発掘調査報告書 VII』矢崎宮の下遺跡 薬師遺跡 , 石川県
小松市教育委員会 (2014)『小松市内遺跡発掘調査報告書 X』古竹 C 遺跡 , 石川県
小松市埋蔵文化財センター (2017)『小松市内遺跡発掘調査報告書 XII』二ツ梨豆岡向山窯跡群 , 石川県
小松市埋蔵文化財センター (2019)『小松市内遺跡発掘調査報告書 XIV』二ツ梨豆岡向山窯跡群 , 石川県

タ　田嶋 明人 (1986)「漆町遺跡出土土器の編年的考察」『漆町遺跡』石川県立埋蔵文化財センター
田嶋 明人 (1988)「古代編年軸の設定」『シンポジウム北陸古代土器研究の現状と課題 (資料編)』北陸古代土器研究会・石川考古学研究会 , 石川県

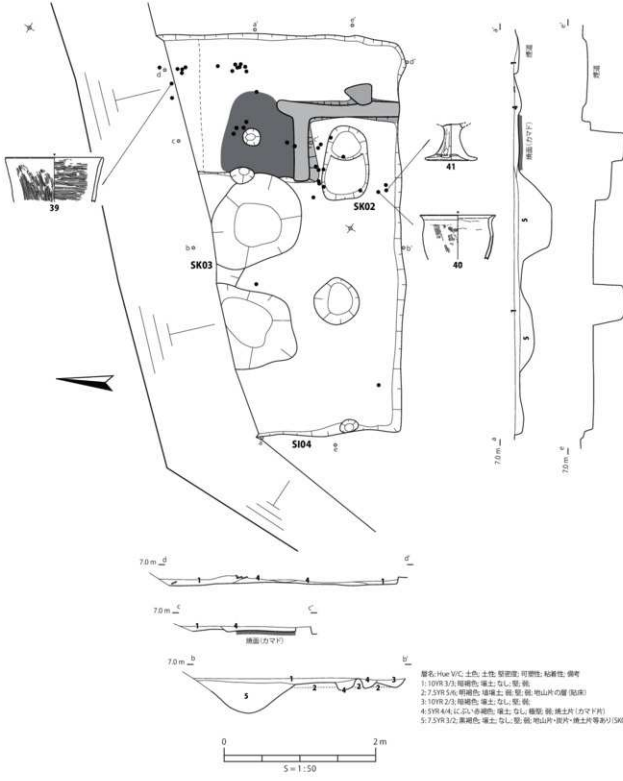
モ　望月 精司 (2006)「額見町遺跡の古代竪穴建物構造と造り付けカマドについて」『額見町遺跡 I』小松市教育委員会 , 石川県
望月 精司 (2007)「三湖台地集落群の古代前半期土器様相」『額見町遺跡 II』小松市教育委員会 , 石川県



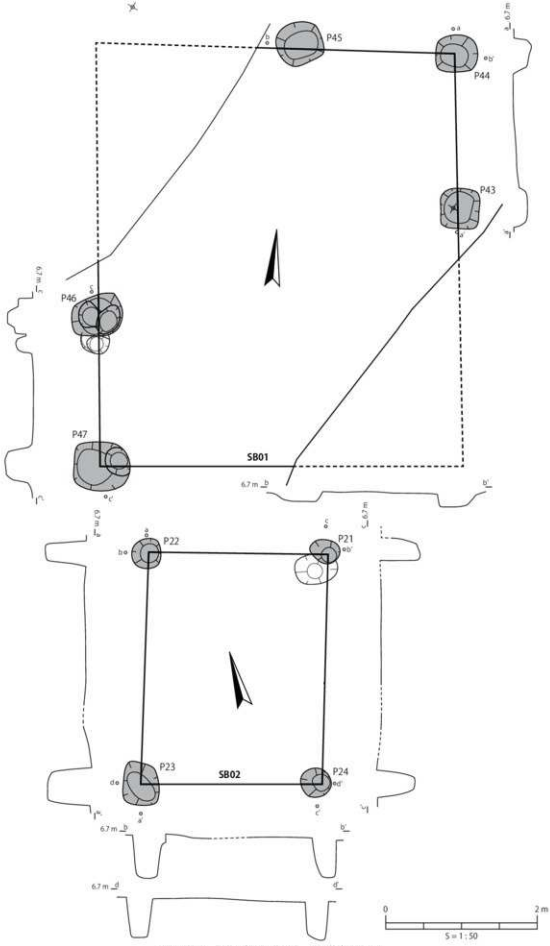
第 27 図　矢崎宮の下遺跡　3 次 平面図



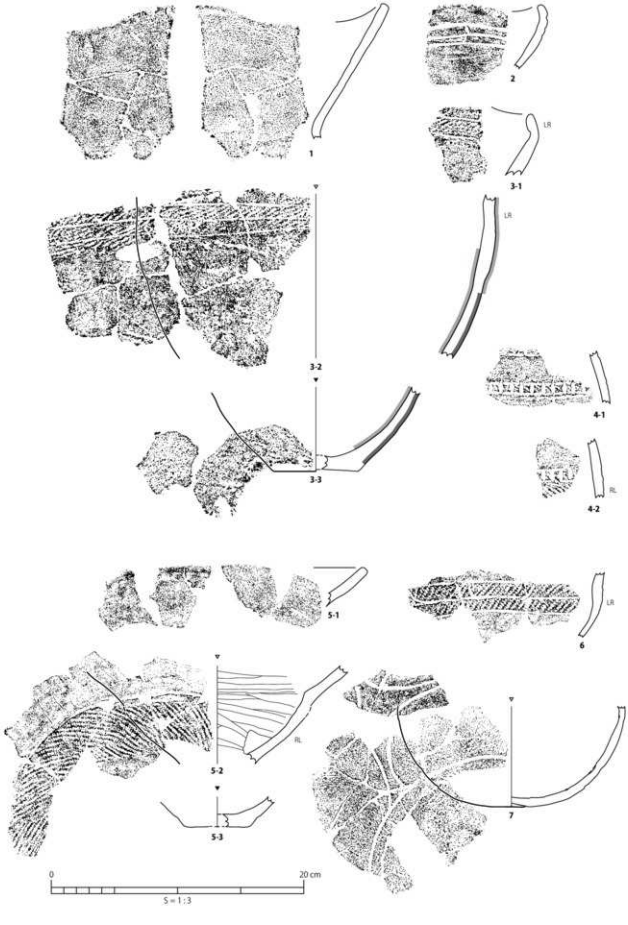
第 28 図　矢崎宮の下遺跡　遺構実測図 1



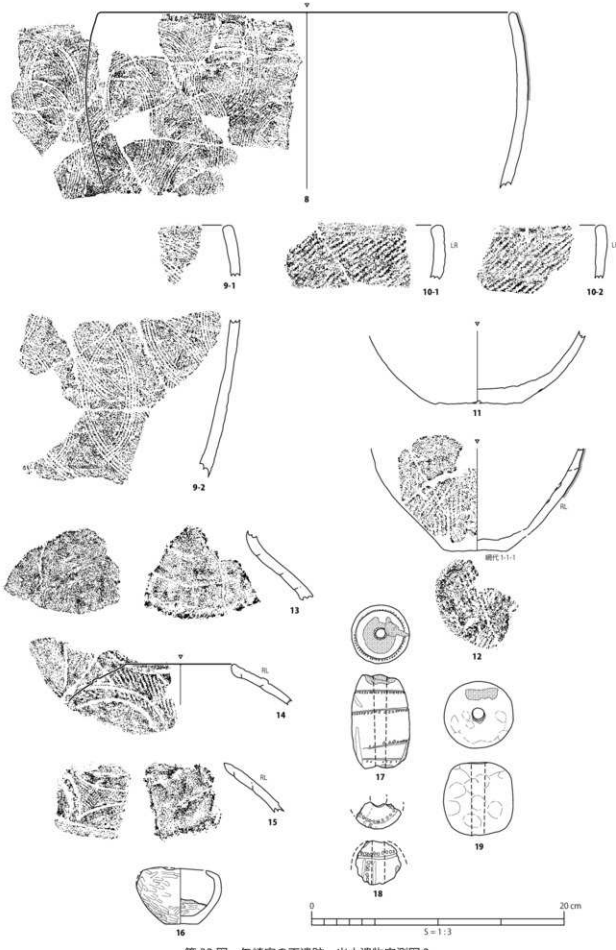
第 29 図　矢崎宮の下遺跡　遺構実測図 2



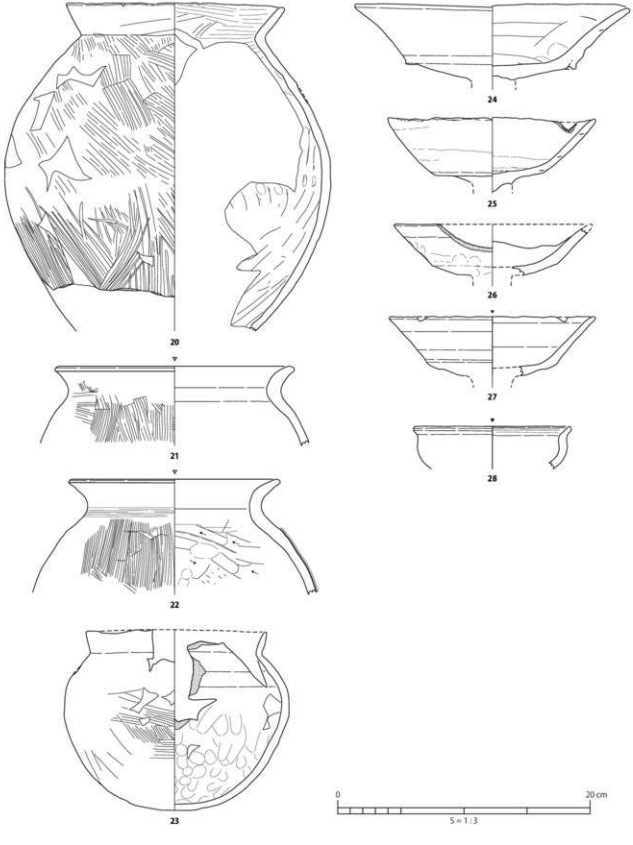
第 30 図　矢崎宮の下遺跡　遺構実測図 3



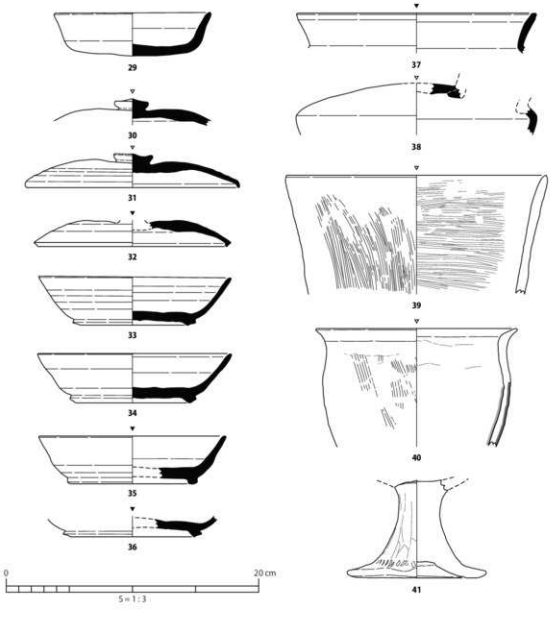
第 31 図　矢崎宮の下遺跡　出土遺物実測図 1



第 32 図　矢崎宮の下遺跡　出土遺物実測図 2



第 33 図　矢崎宮の下遺跡　出土遺物実測図 3



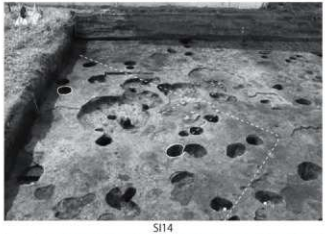
第 34 図　矢崎宮の下遺跡　出土遺物実測図 4

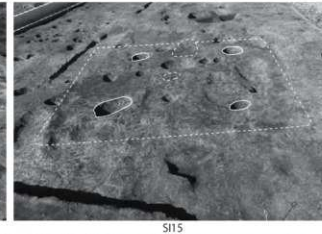
第４表　矢崎宮の下遺跡　出土遺物属性表

番号	実測	出土位置	分類	器形	寸法/残率	表層色調	胎土色調	備考
1	く48	3rd SX01	縄文土器	深鉢		7.5YR 8/4	2.5Y 5/1	酒見
2	た76	3rd 3区	縄文土器	深鉢		10YR 7/4	2.5Y 4/1	酒見
3	た82	3rd 3区 3rd SX01	縄文土器	深鉢	胴:19cm/-, 底:5cm/0.389	7.5YR 8/4	10YR 5/1	酒見
4	た75	3rd 3区	縄文土器	深鉢		10YR 8/2	10YR 4/1	酒見
5	た81	3rd SX01	縄文土器	深鉢	口:22cm/0.083, 底:5cm/0.194	10YR 6/2	10YR 4/1	酒見
6	た74	3rd 3区	縄文土器	深鉢		10YR 7/2	10YR 5/1	酒見
7	た78	3rd 3区	縄文土器	深鉢	底:3cm/0.528	10YR 8/2	2.5Y 5/1	酒見
8	た80	3rd SX01	縄文土器	深鉢	口:33cm/0.194	10YR 8/4	10YR 8/2	酒見
9	た79	3rd 3区	縄文土器	深鉢		10YR 5/2	10YR 5/1	酒見
10	た77	3rd 3区	縄文土器	深鉢		10YR 8/3	2.5Y 5/1	酒見
11	く50	3rd 3区 3rd SX01	縄文土器	深鉢		10YR 7/4	10YR 7/4	酒見
12	く51	3rd SX01	縄文土器	深鉢		10YR 7/4	10YR 6/1	酒見
13	く49	3rd SX01	縄文土器	注口		10YR 6/3	10YR 5/1	酒見
14	た73	3rd 3区	縄文土器	注口	口:8cm/0.167	10YR 8/2	10YR 4/1	酒見
15	く47	3rd SX01	縄文土器	注口		10YR 8/3	2.5Y 5/1	酒見
16	た71	3rd 3区	縄文土製品	小型土器	口:4.0cm/0.389, 胴:6.7cm/0.667, 底:2.6cm/1.000, 高:4.5cm	10YR 5/2	2.5YR 4/1	
17	た69	3rd SX01	縄文土製品	有孔球状	長:7.5cm, 径:4.5cm, 孔:0.9cm, 重:146.47g	10YR 8/4	10YR 8/4	
18	た68	3rd 3区	縄文土製品	有孔球状	重:12.70g	10YR 7/2	2.5Y 4/1	
19	た70	3rd SX01	縄文土製品	有孔球状	長:5.8cm, 径:5.5cm, 孔:0.95cm, 重:172.15g	10YR 8/3		
20	た83	3rd SK04 #3	土師器	釜	口:17cm/1.000, 胴:14cm/1.000, 胴:26cm/-	10YR 8/3	10YR 7/3	古墳中～後期
21	く44	3rd SK02	土師器	釜	口:18cm/0.208, 胴:16cm/0.250	7.5YR 8/4	7.5YR 8/4	古墳中～後期
22	く45	3rd SK02	土師器	釜	口:17cm/0.153, 胴:14cm/0.167	7.5YR 7/4	7.5YR 8/3	古墳中～後期
23	た72	3rd SK04 #2	土師器	小型釜	口:14cm/0.694, 胴:13cm/0.889, 胴:18cm/-, 高:14.3cm	10YR 6/2	5YR 6/4	
24	た64	3rd SK04 #1	土師器	高坏	口:22cm/0.917	10YR 8/3	10YR 8/3	古墳中～後期
25	た65	3rd SK06	土師器	高坏	口:16cm/0.944	10YR 8/3	10YR 8/3	古墳中～後期
26	た66	3rd SK06	土師器	高坏	口:16cm/0.250	5YR 7/6	7.5YR 8/4	古墳中～後期
27	た67	3rd SK06	土師器	高坏	口:16cm/0.556	10YR 8/3	10YR 8/3	古墳中～後期
28	く46	3rd 5区	土師器	甕	口:12.5cm/0.167, 胴:11.8cm/0.194	7.5YR 6/4	7.5YR 8/6	古墳中～後期
29	た56	3rd 4区	須恵器	坏	口:12cm/0.667, 底:10cm/1.000, 高:3.4cm	2.5Y 7/1	10YR 6/2	
30	た58	3rd 4区 3rd SI04	須恵器	坏(蓋)		N 6/0	10YR 7/2	
31	た62	3rd SK03	須恵器	坏(蓋)	口:17cm/0.056, 高:2.6cm	2.5Y 6/1	10YR 7/3	7c 後半～8c 前半
32	た57	3rd 4区	須恵器	坏(蓋)	口:15cm/0.097	2.5Y 6/1	10YR 7/2	7c 後半～8c 前半
33	た53	3rd SK02	須恵器	坏(身)	口:15cm/1.000, 台:10cm/1.000, 高:4.9cm	N 7/0		
34	た54	3rd SI04 3rd SK02	須恵器	坏(身)	口:15cm/0.041, 台:10cm/0.917, 高:3.9cm	2.5Y 6/1	10YR 7/4	
35	た59	3rd SI04	須恵器	坏(身)	口:15cm/0.194, 台:10cm/0.361, 高:3.8cm	2.5Y 7/1	10YR 7/2	
36	た60	3rd SI04	須恵器	坏(身)	台:10cm/0.361	5Y 7/1	10YR 7/3	
37	た55	3rd SI04 3rd SK02	須恵器	壷	口:19cm/0.319, 胴:17cm/0.347	2.5Y 7/1	2.5Y 7/1	
38	た61	3rd 4区 3rd SI04	須恵器	平瓶	胴:19cm/0.333	2.5Y 7/1	10YR 7/2	
39	く43	3rd SI04 #35	土師器	甑	口:20cm/0.139	7.5YR 7/4	10YR 8/3	7c 後半～8c 前半
40	く42	3rd SI04 #2	土師器	小釜	口:16cm/0.139, 胴:14cm/0.167	10YR 6/3	10YR 8/3	7c 後半～8c 前半
41	た63	3rd SI04 #1	土師器	高坏	脚:11cm/1.000	7.5YR 8/4, (内黒)	10YR 8/2	7c 後半～8c 前半

SI14 (作業状況)

SI15 (作業状況)


SI14


SI15

SB13

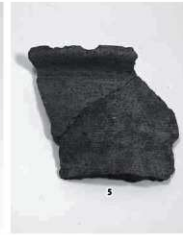
SK29

中学生の職場体験

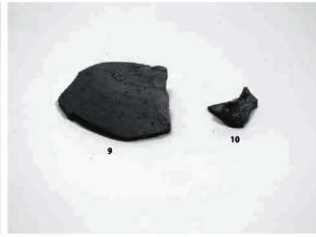
14 次調査区

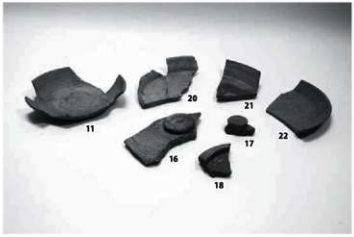
1
2
3

4


5

7
8

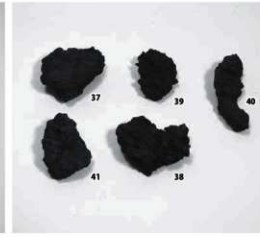

9
10


11
20
21
22
17
16
18

30
36

31

34
35


37
39
40
41
38

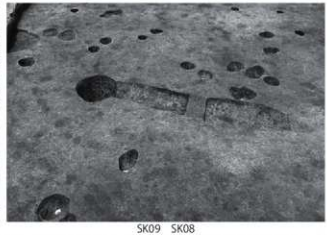
4 次調査区 (作業状況)

SD17　SK05　SK06

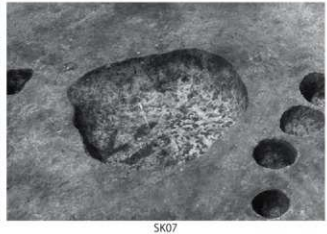
4 次調査区

SD17　SK05　SK06

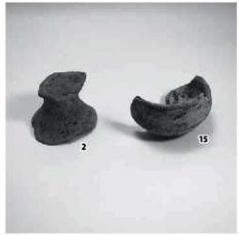
5 次調査区 (作業状況)

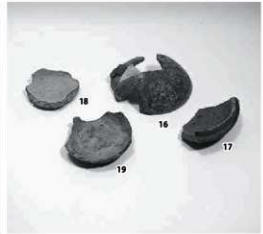

SK09　SK08

土器集中 (SK07 直上)

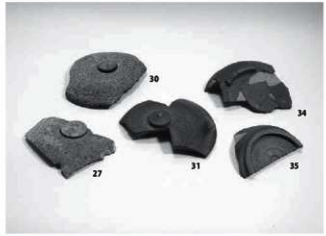

SK07

58
59


2
15

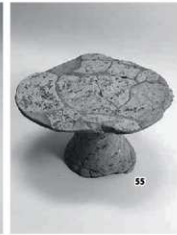

18
16
17
19

9
10
11


30
34
27
31
35

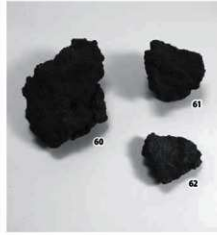
23
22

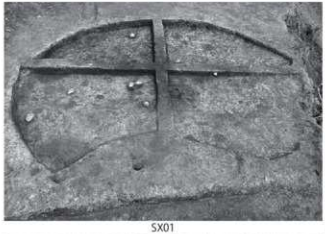
49
43
48
44

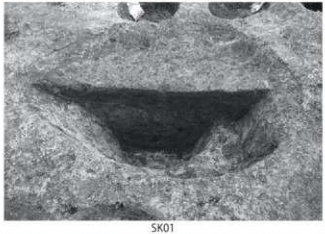

55

50
53
51

56
57


61
60
62


SX01


SK01

SK04 (土器)

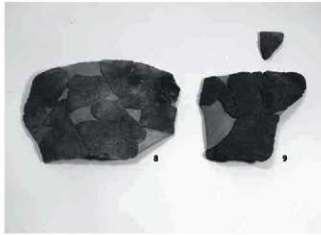
SK06 (土器)

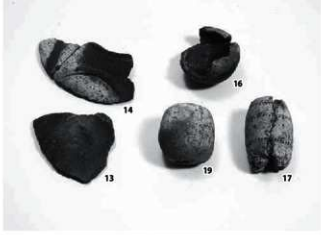
SI15

SI15 (カマド)

SB01　SB02

3
5

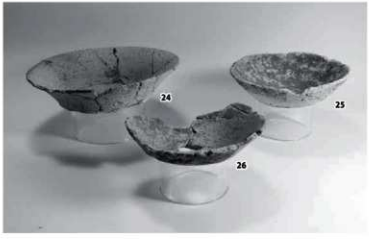

8
9


14
16
13
19
17

20

33
29
34
31
35
36

23


24
25
26

41

報告書抄録

ふりがな	こまつしないいせきはっくつちょうさほうこくしょ 15
書名	小松市内遺跡発掘調査報告書 XV
副書名	薬師遺跡・島遺跡・矢崎宮の下遺跡
巻次	
編・著者名	宮田 明
編集機関	石川県小松市埋蔵文化財センター
所在地	〒923-0075 石川県小松市原町ト77番地8 TEL (0761) 47-5713
発行年月日	西暦 2020 年 3 月 31 日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 ° ′ ″	東経 ° ′ ″	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
薬師 (やくし)	石川県小松市 (いしかわけんこまつし) 矢崎町 (やざきまち)	17203	318100	36° 20′ 09″	136° 26′ 09″	2015. 7.21～ 2015. 8.18	123	個人住宅
				36° 22′ 12″	136° 26′ 14″	2015.10.19～ 2015.11.20	192	店舗併用住宅
				36° 22′ 12″	136° 26′ 15″	2017. 1.10～ 2017. 1.31	190	個人住宅
島 (しま)	石川県小松市 (いしかわけんこまつし) 島町 (しままち)	17203	324900	36° 20′ 53″	136° 25′ 51″	2016. 5.16～ 2016. 5.27	54	個人住宅
				36° 20′ 54″	136° 25′ 50″	2016. 5.24～ 2016. 6.10	159	個人住宅
矢崎宮の下 (やざきみやのした)	石川県小松市 (いしかわけんこまつし) 矢崎町 (やざきまち)	17203	319000	36° 21′ 47″	136° 25′ 58″	2017. 2.27～ 2017. 3.24	163	共同住宅

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
薬師	集落	古墳 古代	竪穴建物 2、掘立柱建物 1、土坑 7	須恵器、土師器、鍛冶滓	
要約	竪穴建物 2 軒は概ね 8 世紀代と考えられる。				

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
島	集落	弥生 古墳 古代	溝 3、土坑 4	弥生土器、玉作 須恵器、土師器、鍛冶滓	
要約	出土遺物の大半を占める土器集中は遺跡の中で評価できず、遺構との関係が不明だが、7 世紀代～ 8 世紀代が中心である。				

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
矢崎宮の下	集落	縄文 古墳 古代	竪穴状遺構 1、 竪穴建物 1、掘立柱建物 2、土坑 9	縄文土器、土製品、 須恵器、土師器	
要約	縄文時代の竪穴状遺構、古墳時代の埋納土坑、古代の L 型カマドを伴う竪穴建物を発見した。				

小松市内遺跡発掘調査報告書 XV

薬師遺跡・島遺跡・矢崎宮の下遺跡

令和２年３月 31 日　発行

編集・発行　小松市埋蔵文化財センター
石川県小松市原町ト 77-8　TEL (0761) 47-5713

印　　刷　株式会社ゲンダ美術印刷
石川県小松市丸の内町 2-32　TEL (0761) 22-7031